

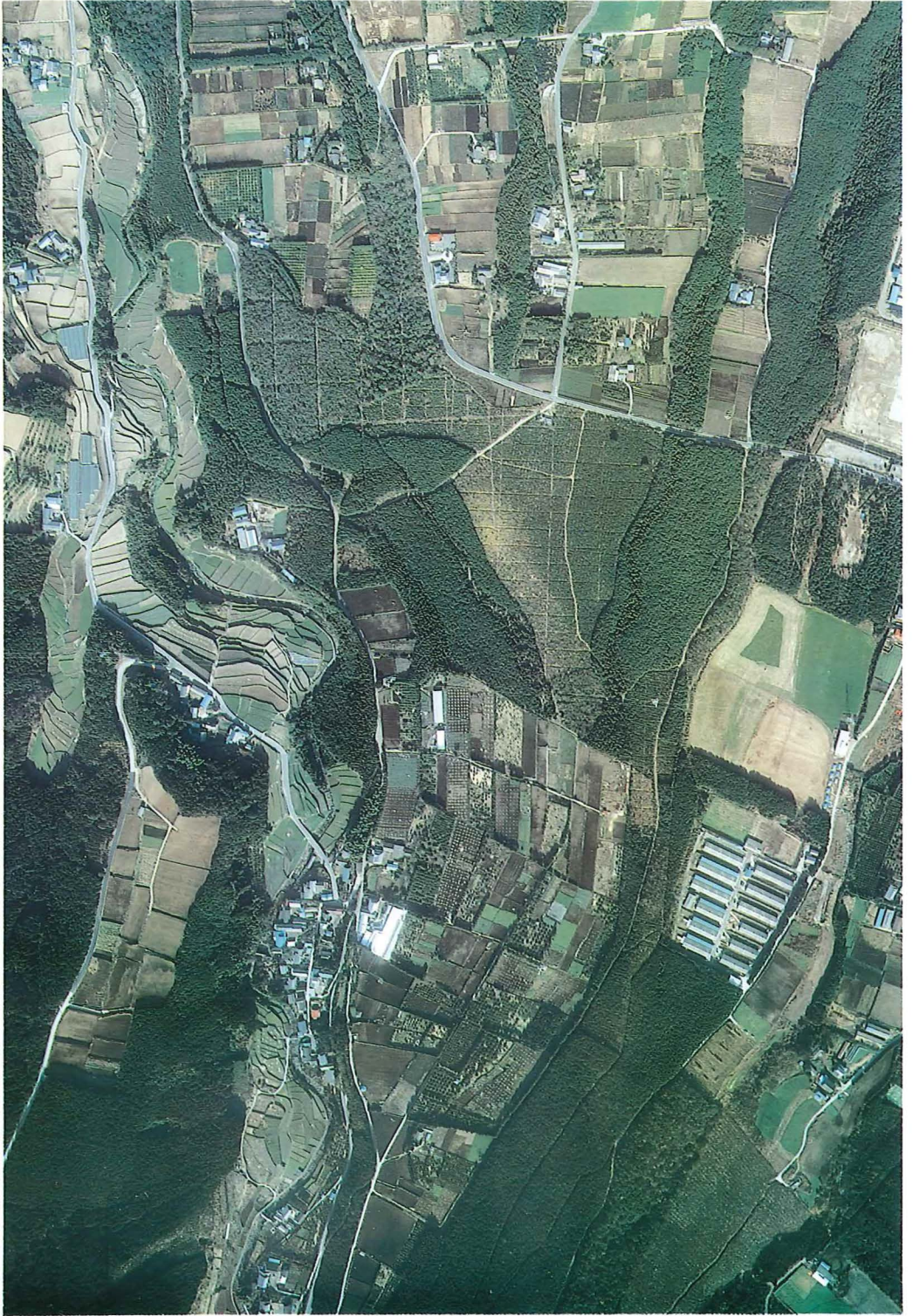
長崎県文化財調査報告書 第95集

魚洗川B遺跡

—— 全国植樹祭会場造成工事に伴う
埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 ——

1989

長崎県教育委員会



序

本県には、古くから大陸との交流が行われ、数万年前から人間の営みが連綿と続けられてきたことを物語る遺跡が各地に数多く残されております。

魚洗川B遺跡もそうした遺跡のひとつで、先土器時代から縄文時代に至る複合遺跡であります。

この報告書は、全国植樹祭の会場造成工事に伴い、昭和63年4月に県教育委員会が実施した緊急発掘調査の成果をまとめたものです。

工事に先立って実施した範囲確認調査の結果を踏まえ、開発と遺跡の保護のための調整協議を重ねた結果、1地点は記録保存し、他の2地点は現地保存することになりました。

埋蔵文化財は、私たちが遠い祖先から受け継いだ遺産であり、後世に引き継ぐことが私たちに課せられた責務であります。

調査に御協力を賜りました関係の皆様には厚くお礼を申し上げますとともに、この調査報告書を通して埋蔵文化財についての御理解を深めていただければ幸いです。

平成元年3月31日

長崎県教育委員会教育長 伊藤昭六

例 言

1. 本書は第41回全国植樹祭会場造成に伴う魚洗川B遺跡緊急発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は長崎県農林部全国植樹祭準備室の要請を受け、長崎県教育委員会が実施した。調査員は下記のとおりである。

副島 和明	長崎県教育庁文化課	主任文化財保護主事
久原 卷二	〃	指導主事 (現県立島原高等学校教諭)
伴 耕一郎	〃	文化財調査員
3. 調査期間、所在地は次のとおりである。

範囲確認調査	：昭和63年2月1日～昭和63年2月13日
発掘調査	：昭和63年4月6日～昭和63年5月24日
所在地	：長崎県南高来郡国見町金山名
4. 本書は分担執筆し、Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ-2-(1)～(3)・Ⅴは副島、Ⅲ・Ⅳ-1, Ⅳ-2-(4)は伴が担当した。
5. 遺物の実測・製図は伴、写真撮影は副島が行った。
6. 本書の編集は副島、伴が担当した。
7. 出土遺物は長崎県教育庁文化課で保管している。

本文目次

I. 調査に至る経緯	1
II. 調査経過	2
1. 分布調査	2
2. 範囲確認調査	2
3. 緊急発掘調査	2
III. 遺跡の地理的歴史的環境	5
IV. 魚洗川B遺跡の調査	11
1. 範囲確認調査の層位	11
2. B地点の発掘調査	12
(1) 調査概要	12
(2) 層位	15
(3) 先土器時代	19
① 遺構	19
② 出土遺物	19
③ B地点の遺物分布状況	30
④ A, C地点の遺物分布状況	42
(4) 縄文時代	45
① 遺構	45
② 出土遺物	47
V. 小結	50

挿 図 目 次

Fig. 1	魚洗川B遺跡位置図	1
Fig. 2	魚洗川B遺跡周辺地形図	3・4
Fig. 3	周辺の遺跡 (1/25,000)	7
Fig. 4	範囲確認調査時の土層	9・10
Fig. 5	魚洗川B遺跡・B地点調査区	11
Fig. 6	魚洗川B遺跡土層図 (1/80)	13・14
Fig. 7	B地点第Ⅳ層下面検出礫群	16
Fig. 8	先土器時代の出土石器① (第Ⅵ層)	18
Fig. 9	先土器時代の出土石器② (第Ⅴ層)	20
Fig. 10	先土器時代の出土石器③ (第Ⅳ層)	22
Fig. 11	先土器時代の出土石器④ (第Ⅳ層)	23
Fig. 12	先土器時代の出土石器⑤ (表土・表採)	24
Fig. 13	C地点先土器時代の出土石器⑥ (第Ⅳ層)	28
Fig. 14	B地点第Ⅵ層遺物分布図(1)	32
Fig. 15	B地点第Ⅵ層石材別遺物分布図(2)	33
Fig. 16	B地点第Ⅵ層器種別遺物分布図(3)	34
Fig. 17	B地点第Ⅴ層遺物分布図(1)	35
Fig. 18	B地点第Ⅴ層石材別遺物分布図(2)	36
Fig. 19	B地点第Ⅴ層器種別遺物分布図(3)	37
Fig. 20	B地点第Ⅳ層遺物分布図(1)	38
Fig. 21	B地点第Ⅳ層石材別遺物分布図(2)	39
Fig. 22	B地点第Ⅳ層器種別遺物分布図(3)	40
Fig. 23	B地点石器群の垂直分布図	41
Fig. 24	範囲確認調査・A地点遺物分布図(1)	43
Fig. 25	範囲確認調査・C地点遺物分布図(2)	44
Fig. 26	縄文時代の遺構—土坑 (1/20)	46
Fig. 27	縄文時代の石器① (1~5は2/3・6~7は1/2)	48
Fig. 28	縄文時代の石器② (1/2)	49
Fig. 29	魚洗川B遺跡B地点の石器群組成図	55・56

表 目 次

Tab. 1	周辺の遺跡地名表	6
Tab. 2	先土器時代出土石器の石材別・層位別一覧表	17
Tab. 3	先土器時代出土石器の石材別・層位別一覧表 (範囲確認調査)	27
Tab. 4	先土器時代出土石器の計測表	28・29
Tab. 5	石鏃計測表	47
Tab. 6	ナイフ形石器地区別・層位別・形態別分類表	50

図 版 目 次

巻頭写真	魚洗川B遺跡航空写真	
PL. 1	魚洗川B遺跡遠景	59
PL. 2	範囲確認調査(A～C地点)・205-6区(北壁面) 調査風景	60
PL. 3	B地点調査区周辺の土層堆積状況	61
PL. 4	B地点縄文時代の遺構・ B地点先土器時代の第IV層検出遺構	62
PL. 5	B地点第VI層遺物出土状況	63
PL. 6	B地点第IV層・第V層遺物出土状況	64
PL. 7	先土器時代の出土石器①(第VI層)	65
PL. 8	先土器時代の出土石器②(第V層)	66
PL. 9	先土器時代の出土石器③(第IV層)	67
PL. 10	先土器時代の出土石器④(第IV層)	68
PL. 11	先土器時代の出土石器⑤(第IV層)・表土・表採	69
PL. 12	縄文時代の石器	70
PL. 13	B地点調査風景	71
PL. 14	発掘調査後の遺跡	72

I. 調査に至る経緯

平成2年度に開催予定の第41回全国植樹祭会場の候補地として、南高来郡国見町魚洗川地区が選定され、昭和61年6月に県農林部植樹祭準備室より同区域内に所在する遺跡の取扱いについて、協議がなされた。

協議の結果、詳細な分布調査を実施することになった。

当該会場予定範囲には、魚洗川A・B遺跡が周知されており、隣接する県立百花台広域公園や県道国見～雲仙線改良工事関係の埋蔵文化財緊急発掘調査が、県教育委員会で昭和57年度より数次に渡り実施され、先土器～縄文時代の集落跡が明らかになった地域でもあった。

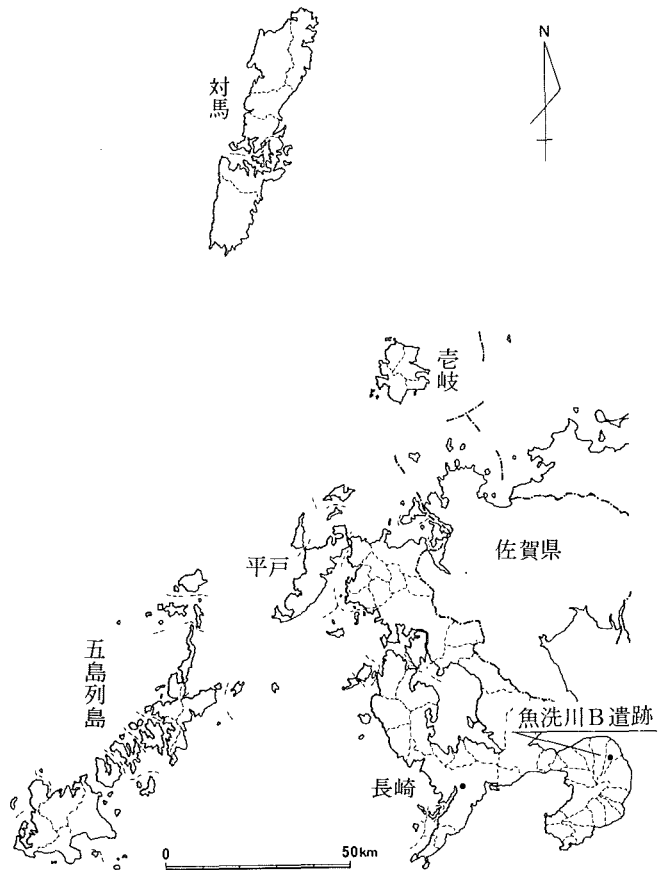


Fig. 1 魚洗川B遺跡位置図

Ⅱ．調査経過

1．分布調査

全国植樹祭会場予定地（約22,000㎡）の範囲内には、先土器～縄文時代の包蔵地である魚洗川A・B遺跡が周知されていた。また、当該地域に隣接して、各種の大規模開発計画が策定され、埋蔵文化財緊急発掘調査が実施されており、周辺一帯での遺跡の拡がり予察された。

昭和61年6月30日に分布調査を実施した結果、周知された面積よりも広範囲に遺物が採集された。

2．範囲確認調査

分布調査の結果に基づいて、県農林部植樹祭準備室と県文化課は協議を重ね、範囲確認調査を実施し、協議の基礎資料を得ることになった。

調査は昭和63年2月1日～同年2月13日（13日間）まで、2m×2mの試掘坑を21箇所設定して実施した。

試掘坑は測量杭（全国植樹祭関係）を利用して、東西南北に50m間隔のグリッドを組み、25m単位に設定した。

試掘調査の結果、A～C地点の3箇所先土器時代の遺物包含層が確認された。また、縄文時代の遺物も出土し、部分的に包含層も残存しているが、大部分は開拓や耕作で削平されている。

各地点の分布面積はA地点600㎡、B地点500㎡、C地点1,200㎡の計2,300㎡であった。（Fig.2参照）

以上の調査結果をふまえて協議を行い、A・C地点は設計変更で現状保存で残し、B地点については記録保存をすることになった。

3．緊急発掘調査

範囲確認調査の結果、昭和63年4月6日～同年5月24日（49日間）まで、B地点の550㎡について、発掘調査を実施し終了した。（調査時に50㎡程拡張した。）

先土器時代のナイフ形石器を主体とする石器群が明らかになった。

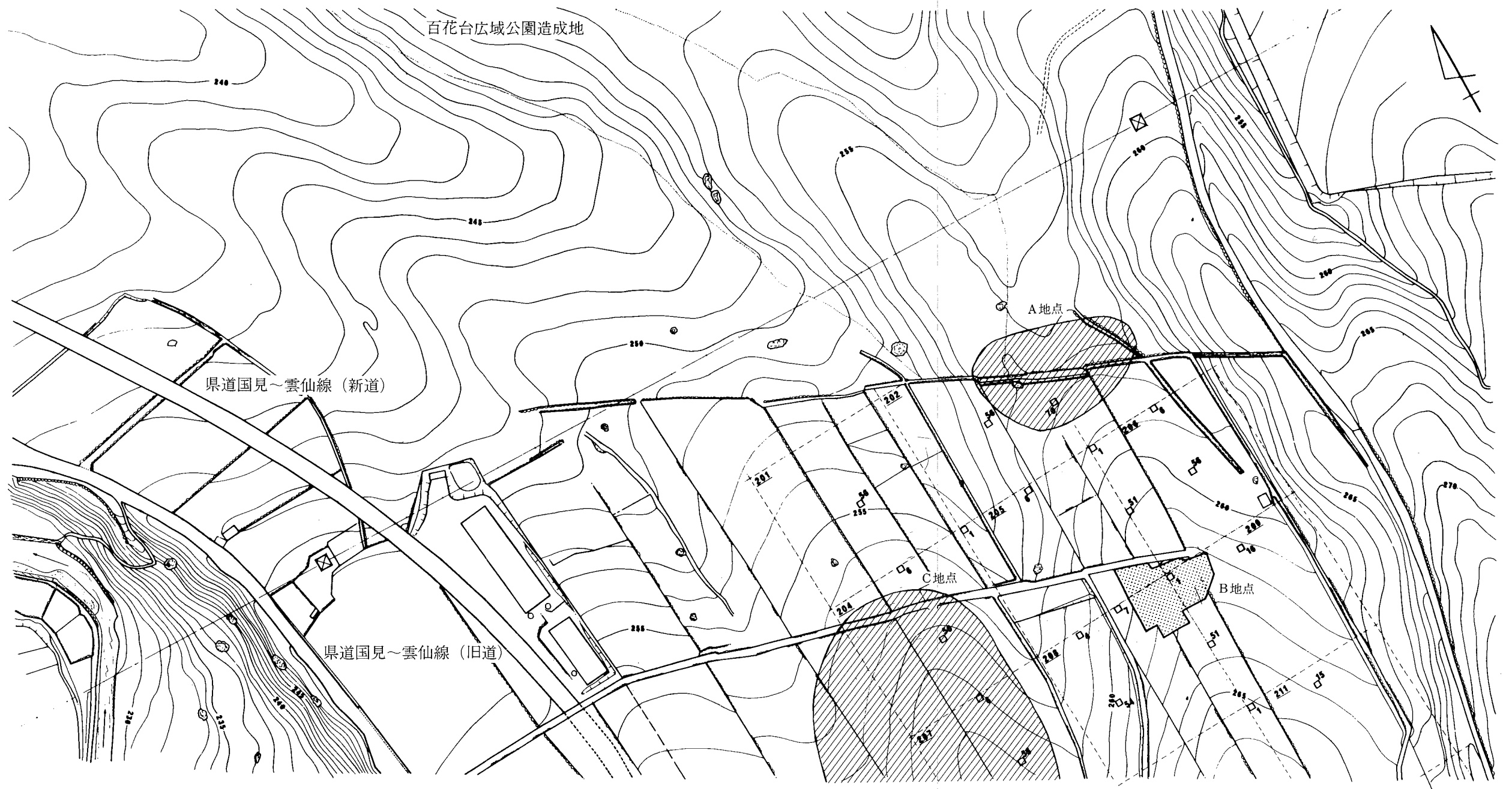


Fig. 2 魚洗川B遺跡周辺地形図

Ⅲ．遺跡の地理的歴史的環境

地理的環境

(Fig. 2・3)

魚洗川B遺跡は、島原半島の主峰普賢岳(1,359m)を起点として北側に向かって緩やかに傾斜する火山性山麓扇状地にあり、標高260～290mを測る。行政的には長崎県南高来郡国見町金山名字横道上にあたる。

西側には川(魚洗川)を挟んで魚洗川C遺跡、北側に魚洗川A遺跡やさらに500mほど下った一帯には百花台遺跡群が隣接し、先土器時代～縄文時代にかけて大規模な遺跡群を形成している。

島原半島は、長崎県の南東部にあり、東に有明海、西は千々石(橋)湾、南は早崎海峡をへだて熊本県天草と対する。北には諫早湾を抱き、愛野地峡で肥前半島と結ばれる。半島の規模は南北約32km、東西約24km面積約463㎢である。

国見町は、島原半島の北部に位置し東は有明海、西は瑞穂町、南は島原市・千々石町・小浜町と山峡で接する。また、鳥甲山や舞岳を起点とする神代川・土黒西川・土黒川・栗谷川の水系が水田地帯とその河川間の丘陵部には肥沃な畑地が形成されている。米・馬鈴薯・トマト・メロン・いちご・みかん・ぶどう・梨など多様な農産物を生産し、酪農や養豚、養鶏も盛んである。海岸線は単調で緩やかに外湾しており、漁業のほか、遠浅の干潟を利用して、海苔の養殖が行なわれたり最近ではアサリの養殖も始められている。

歴史的環境

島原半島には、現在39もの遺跡が知られており、長崎県内の全遺跡の13.2%にあたる。複合する時代の遺跡も多く、立地条件に恵まれた地域は長く時代を越えて生活が営まれたことがうかがえる。先土器時代22、縄文時代163、弥生時代99、古墳時代95と縄文時代の遺跡の多いのが目立つ。先土器時代は百花台A～F遺跡、堀囲A～C遺跡、魚洗川A～C遺跡と言ったように国見町の百花台地区に集中している(かつて島原市三会の長貫遺跡でハンドアックスが採集されたことがあるが、確実な資料としては百花台遺跡の第Ⅶ層の石器群が最も古いものと言えよう)。縄文時代は分布状況も半島全体に広がるものの、国見町～有明町・島原市の北側や深江町～布津町などに多く見られる。また、県内80箇所を越える押型文土器の出土する遺跡中、42箇所が島原半島、特に半島北側(北目)に多く注目される。弥生時代、古墳時代の遺跡は千々石湾沿岸にはほとんど見られず、ここでもやはり北目にかたよっている。

国見町内には、45箇所の遺跡がある。島原半島の遺跡総数の10.2%を占め、比較的多い分布をなす。先土器時代の遺跡14、縄文時代23、弥生時代9、古墳時代5、古代2、中世6、近世1となる。特に先土器時代の遺跡は多く、百花台遺跡群を中心に、ナイフ形石器・台形石器・細石器などの多様な石器を層位的に数多く出土しており学史に果たした役割は大きい。縄文時代においても百花台遺跡は早期～前期・晩期などの良好な遺物が出土する。他にも筏遺跡などが後期の土器を多く出土する。弥生時代の遺跡は少なく、中期～後期にかけての遺跡が、土黒川や多比良川に沿って見られる。古墳は、高下古墳や筏古墳など4基が知られている。古代になると、条里遺構が、また奈良時代の寺院址とも言われる五万長者屋敷遺跡もある。中世以後のものとしては多比良氏の多比良城（轟木城）、神代氏の神代城（鶴亀城）がある。神代氏は後に有馬氏によって滅ぼされる（天正12年、1584）。また、結城城には、江戸時代初のキリシタン大名ジョルジュ結城弥平治が城主（慶長七年、1602）となり有馬氏に仕えた。近世になると5箇村に分かれ多比良・土黒は島原藩、神代西・神代東・楠高は佐賀藩の飛地として神代領となった。神代西村に

番号	遺跡名	所在地	種別	立地	時代
1	泥瀾遺跡	国見町（土黒）八斗木名字泥瀾	遺物包含地	台地	先土器
2	堀囲A遺跡	〃（多比良百花台）金山名字堀囲	〃	丘陵	先・縄
3	堀囲B遺跡	〃 〃 〃	〃	〃	〃
4	堀囲C遺跡	〃 〃 〃	〃	台地	〃
5	栗山遺跡	〃 〃 八斗木名字栗山	〃	〃	縄文
6	百花台A遺跡	〃 〃 金山名字堀囲	〃	〃	先・縄
7	百花台B遺跡	〃 〃 〃	〃	〃	〃
8	百花台C遺跡	〃 〃 〃	〃	〃	〃
9	百花台D遺跡	〃 〃 〃	〃	〃	〃
10	百花台E遺跡	〃 〃 〃	〃	丘陵	〃
11	百花台F遺跡	〃 〃 〃	〃	台地	〃
12	魚洗川A遺跡	〃（魚洗川）金山名字横道上	〃	丘陵	〃
13	魚洗川B遺跡	〃 〃 〃	〃	台地	〃
14	魚洗川C遺跡	〃 〃 〃 字上カゴメ石	〃	丘陵	先土器
15	森岡遺跡	有明町戸田名字横道	〃	台地	縄文
16	二ッ石遺跡	〃 〃 字地藏辻	〃	丘陵	〃
17	礫石原遺跡	〃 大野名字一本松および島原市	〃	台地	〃
18	礫石原古墓	島原市（三会）礫石原町甲	墳墓	丘陵	〃

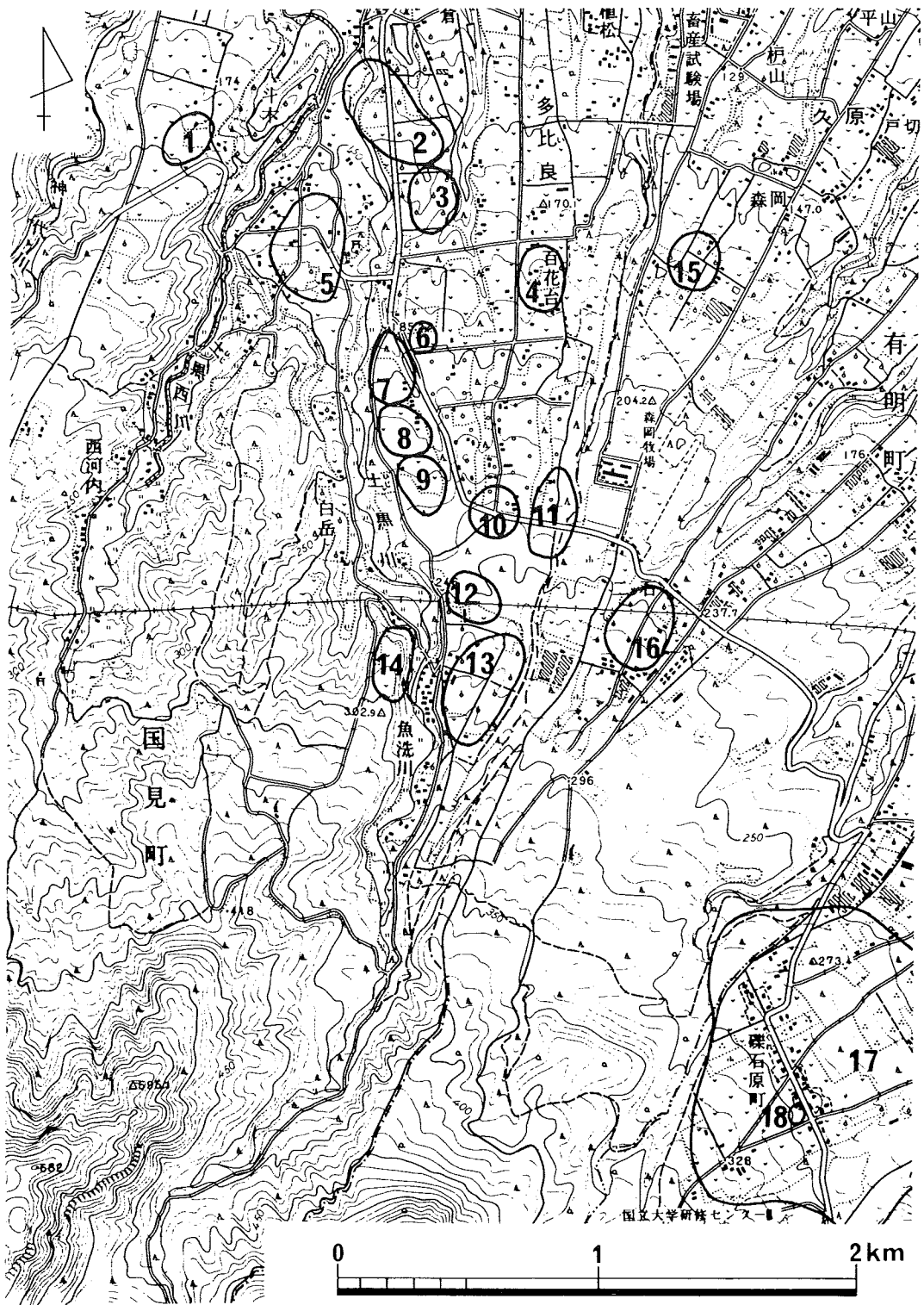


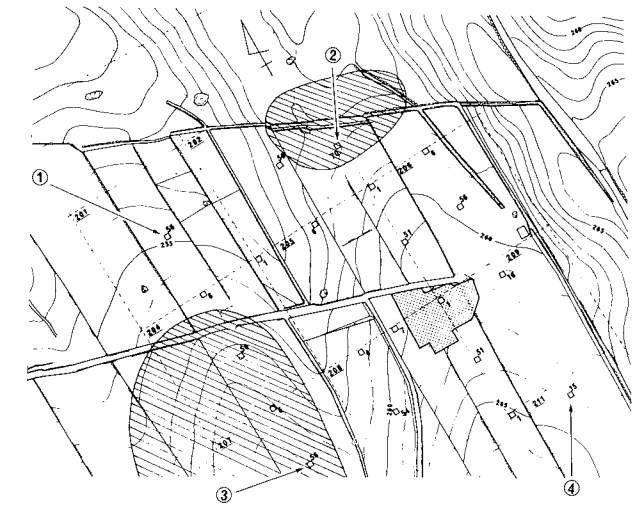
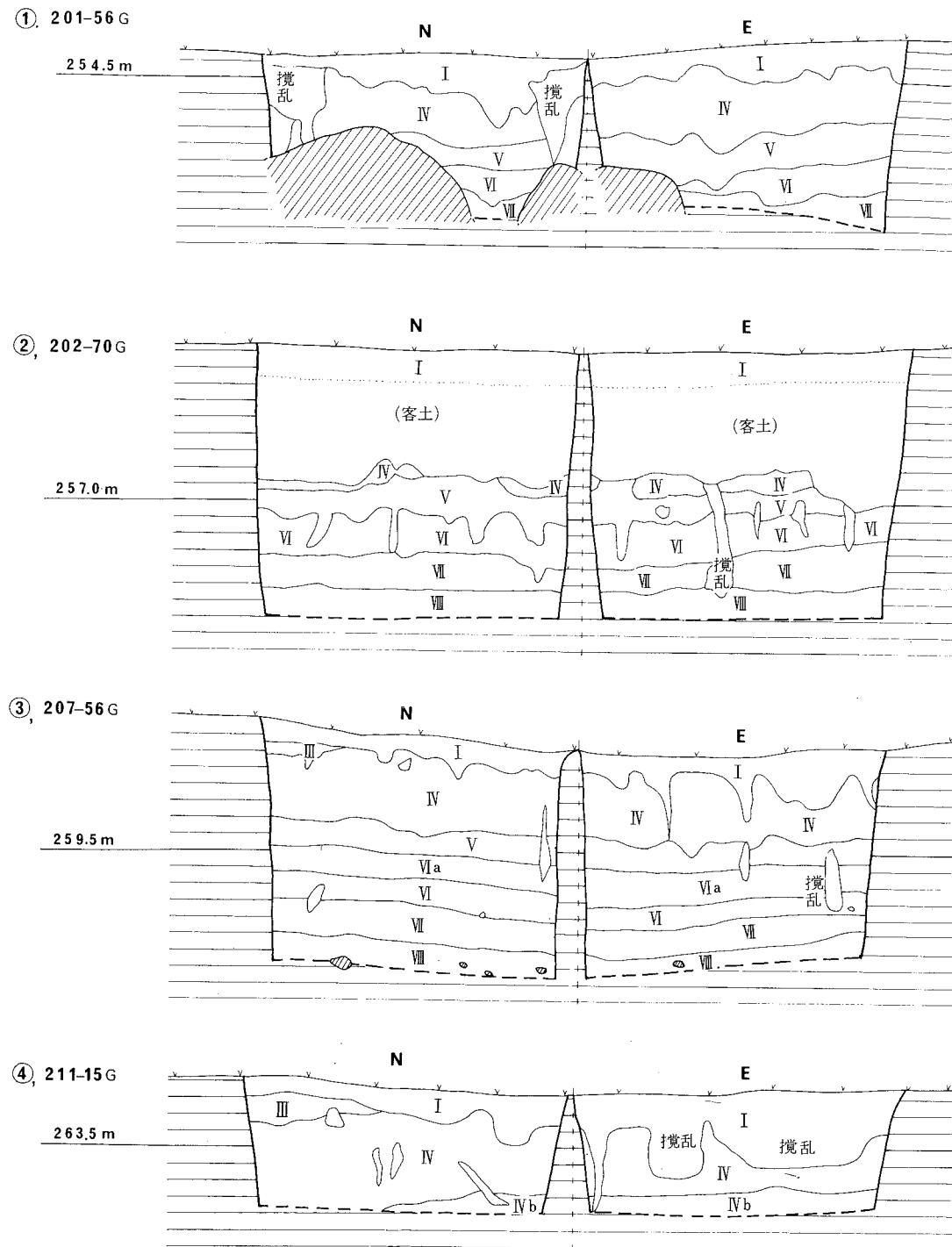
Fig. 3 周辺の遺跡 (1/25,000)

は鍋島の陣屋が設けられ、今日まで伝えられている。明治の国見町は多比良・土黒・神代の3村となり、昭和12年多比良に町制が、31年には土黒村と合併して国見町となり、さらに翌32年神代村を編入して今日に至る。

※『魚洗川』の名称の由来※

本来の呼び名は地元の人達の間では「いわれご」と呼ばれています。島原半島地方の方言の一つでしょうが、魚のことを「うお」と言わずに「いお」もしくは「いを」と言い、川をよく「ごう」と言います。従って、魚洗川はもともとは「いをあらいごう」であり、それが、読みやすく音便化され口語的に「いわれご」となったものと考えられます。また、「島原の殿様に、島原やこの付近から富津（現在の小浜町の富津地区）界わいに魚を取りに行っていたようで、その帰る途中に、この地は冷たい清水が豊富であったことから、魚を一度洗ってから献上していた」と言う言伝えがある。千々石・小浜へ通じる道は現在の国道、つまり海岸線側を使うより山側の道である南の鳥甲山や吾妻岳の裏（南）の雲仙地溝帯（千々石断層）を通るとはるかに早い。なお、魚洗川という字は、旧多比良町金山名の最も南の山間部辺りで50年ほど前に、土地の開墾や生活の便利さなどからおよそ500m下った、現在のところに集落が営まれ今日に至る。よってこの集落一帯を今では通称「魚洗川」と呼んでいる。

- 参考文献
- ・国見町 1984「国見町郷土誌」
 - ・角川書店 1987「長崎県地名大辞典」
 - ・国見町八斗木小学校 1983「八斗木むかしむかし」
 - ・長崎県 1984「雲仙の自然と歴史」
 - ・長崎県教育委員会 1988「百花台遺跡」
- 百花台広域公園建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 —



- 第 I 層—表土および耕作土(客土を含む)
- 第 II 層—黄褐色火山灰土層(削掘され残っていない)
- 第 III 層—黒色火山灰土層(部分的に残っている)
- 第 IV 層—混礫灰黒色土層
(パミスを含む硬質の火山灰土層)
- 第 IVb 層—黄灰色砂質土層(ガチガチとして非常に硬質)
- 第 V 層—茶褐色粘質土層
(パミスはほとんど含まず, 比較的軟かい)
- 第 VIa 層—黄褐色粘質土層(基本的には第 VI 層と同一)
- 第 VI 層—暗褐色粘質土層
(乾燥すると縦方向のクラックが生じる)
- 第 VII 層—黒色火山灰土層
(軟質でキメの細かい火山灰土層)
- 第 VIII 層—黄色粘質土層
(基盤で相当に厚い堆積をなす)



Fig. 4 範囲確認調査時の土層 (1/40) (N=北壁・E=東壁)

IV. 魚洗川B遺跡の調査

1. 範囲確認調査の層位

範囲確認調査にあたって、試掘坑を21箇所設定した。そのうち遺物が出土した地点が大まかに分けて3箇所（A・B・C地点）認められた。後にB地点は発掘調査を行なう結果となり後述のとおりである。ここではA地点、C地点から1箇所ずつ、他に2箇所を加え計4箇所の試掘坑の土層の堆積状況を述べたい。基本的には百花台遺跡群と同様な土層堆積をなすが全体的に耕作が深く第Ⅱ層、第Ⅲ層はほとんど残っていない。しかも、北へ下るなだらかな旧地形をしていたと考えられるが、畑地・水田として使いやすく平坦にするため低い部分にはかなりの盛土も行われていた。また、遺跡中央には南北に浅い谷がはしり土層の残りが極めて悪く、表土直下が基盤岩のところもいくつか認められた。

201-56区は北西部分にあたる。この辺りは、馬鈴薯などの畑として利用されていた部分で比較的に表土が厚い。浅いところでは表土下40～50cmで巨石が見られ、その巨石の間に第Ⅳ層からの標準的な土層堆積が見られた。遺物の出土はなかった。

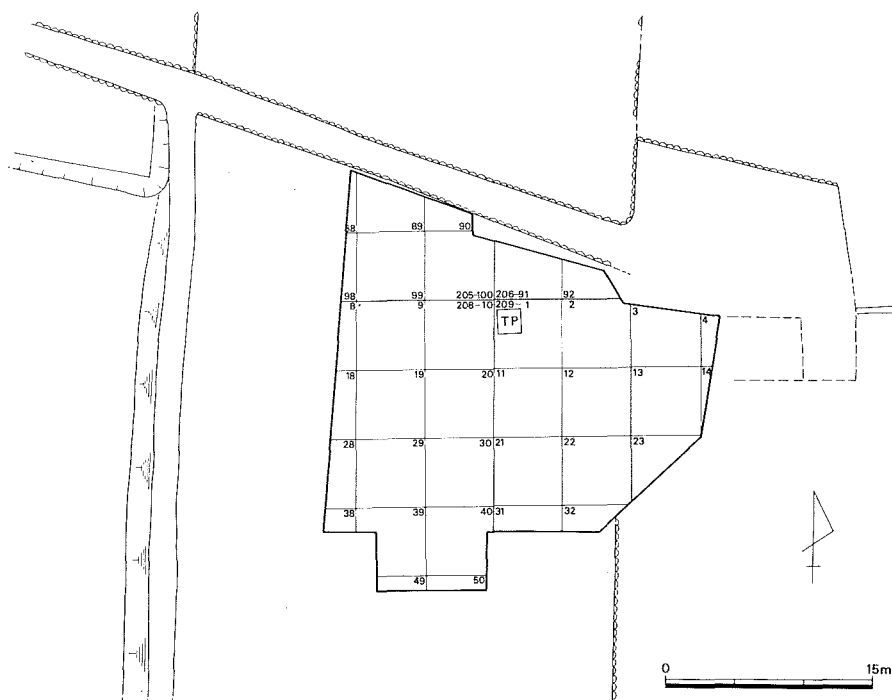


Fig. 5 魚洗川B遺跡・B地点調査区

202-70区は北側部分にあたり、遺物が出土した（A地点）。図でもわかるように、表土と客土（盛土）が70～80cmをなす。20年程前迄この付近は山林だったそうで、開墾にあたり今日まで2・3回の盛土や整地が行われたということである。旧表土は残らないが、第Ⅳ～第Ⅷ層までの基本土層で、第Ⅴ層と第Ⅵ層から50数点の石器などが出土している。

207-56区は南西部分にあたり、遺物が出土した（C地点）。東に通る小道より南側は一段（50～80cm）高くなり、この辺りは比較的土層の残りが良好であった。わずかではあるが第Ⅲ層も見られた。第Ⅳ層は厚く、ナイフ形石器をはじめとする遺物が10点ほど出土した。また、第Ⅵ層の上に黄色身をおびた少し柔らかな層があり第Ⅵa層とした。

211-15区は南東部分にあたる。この辺りはキャベツ畑だった部分で耕作や攪乱が深い。遺物の出土は一点もない。この辺りから209-16区にかけて、第Ⅳ層下に黄灰色のガチガチとした砂質土層があり、基盤と同様の性質のものと考えられる。第Ⅳb層とした。

2. B地点の発掘調査

(1) 調査概要

遺跡は雲仙岳北麓のなだらかに傾斜する火山性山麓扇状地の標高255～280m程に立地する。その丘陵の東側を魚洗川・土黒川、西側を栗谷川が流れ、有明海に注ぐ。

遺跡が在る丘陵部に浅い谷部が数条走り、尾根の部分にA～C地点の3箇所遺物が集中する傾向を示す。

所在地：長崎県南高来郡国見町大字金山名

A地点 標高256～260m程で、600㎡の範囲に遺物の分布が見られるが、区域外の南側へ更に広がるものと考えられる。

試掘坑202-70区の第Ⅴ層～第Ⅵ層に遺物が出土している。

C地点 標高259～262m程で、1,200㎡の範囲に遺物の分布を示すが、A地点と同様に区域外の西側へ広がるものと考えられる。

試掘坑207-6、56区の第Ⅳ層に遺物が出土した（調査は第Ⅴ層面で終了）。

B地点の調査 調査は昭和63年4月6日～同年5月24日まで、調査対象面積550㎡につ

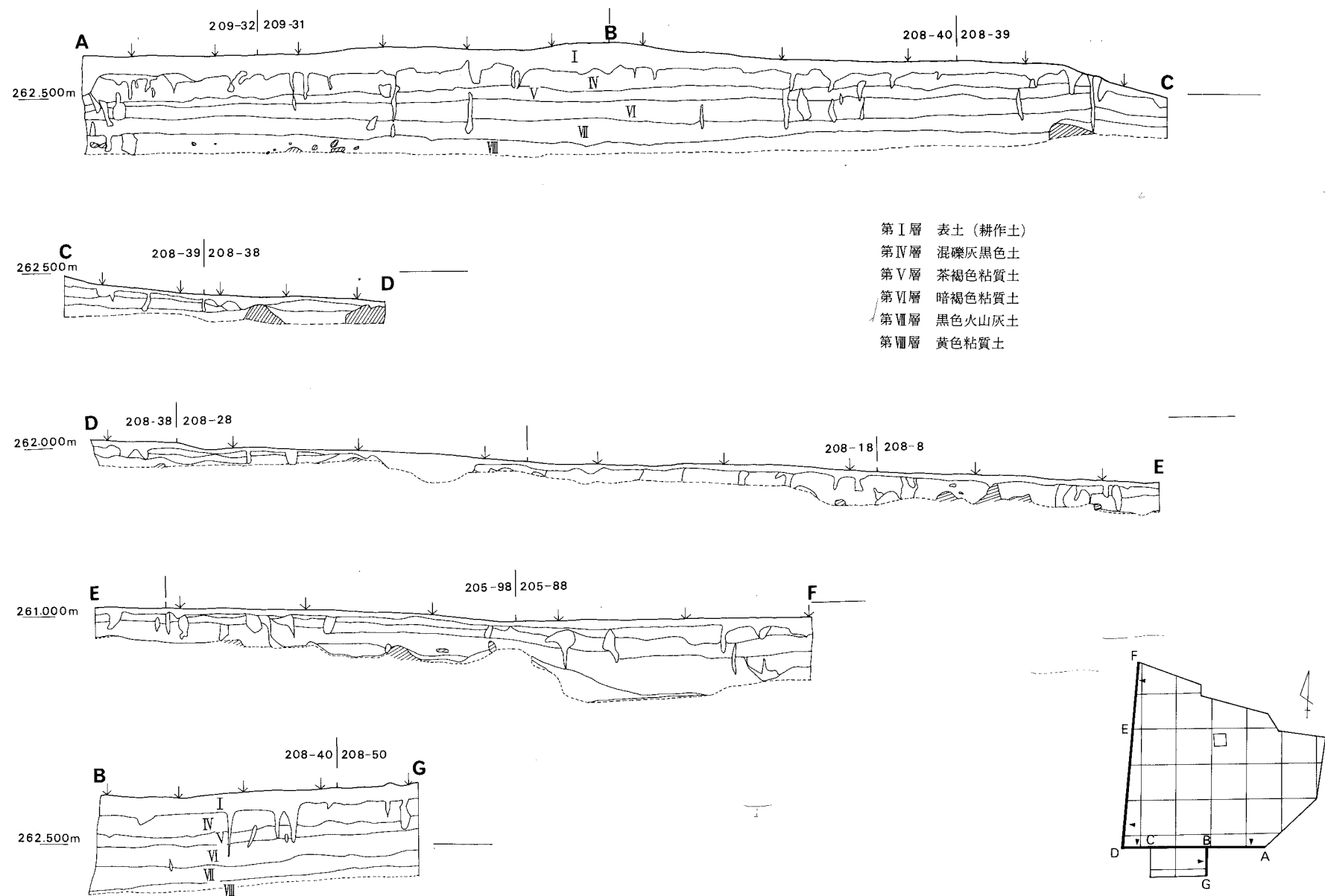


Fig. 6 魚洗川B遺跡土層図 (1/80)

いて実施した（当初は500㎡の調査予定であったが、遺物の出土範囲が広がった為に拡張した）。

調査はグリット法で、植樹祭関係の測量坑D測線と7測線の交差点を利用し、磁北を基準に東西、南北に50mの大グリットを組み、更に5m×5m単位の網目方眼に小グリットを設定し実施した。（別添図参照）

調査区全域に亘って、第Ⅱ層～第Ⅲ層の土層堆積が深耕のために、ほとんど掘削されて残存していなかったが、第Ⅳ層～第Ⅶ層までの土層堆積状況は基本層位（百花台遺跡の層序）の堆積を示している。

縄文時代 縄文時代の遺物は層位的には出土していないが、第Ⅱ層面からの掘り込みが考えられる落とし穴状遺構1基が、第Ⅳ層～第Ⅵ層面に掘り込んだ状況で検出された。

先土器時代 遺構は209-21～22, 31～32区, 208-30・40区の第Ⅵ層に礫群が検出された。

遺物は第Ⅳ層～第Ⅵ層まで、ナイフ形石器を主体とする石器群が検出され、遺物が集中する箇所が、第Ⅳ層に2箇所、第Ⅴ層に5箇所、第Ⅵ層に4箇所の計11箇所が検出された。

(2) 層 位

遺跡は雲仙岳北麓の火山性山麓扇状地に立地し、火山灰が厚く堆積している。土層堆積状況は百花台遺跡群と同様な基本的層序を示している。

B地点は北側へなだらかに傾斜し、丘陵部の東および西側には浅い谷が地形に則して南北に形成されている。その丘陵部分に立地する。

調査区の西側に当る205-88, 98, 208-8～38区にかけては傾斜が急で、第Ⅳ層面まで流出状況を呈している。

また、206-92, 209-2～32区より東側には、第Ⅳ層の堆積が厚く、水の影響を受けたのか固く締った状況であった。

全面的に第Ⅱ層が削平され、第Ⅲ層も部分的にしか残存していない。

層序は第Ⅰ層・表土（耕作土）、第Ⅳ層・混礫灰黒色土層（30～40cm）、第Ⅴ層・茶褐色粘質土層（15～20cm）、第Ⅵ層・暗褐色粘質土層（30～40cm）、第Ⅶ層・黒色火山灰土層（15～20cm）、第Ⅷ層・黄色粘質土層（基盤）である。

遺物は第Ⅳ層～第Ⅵ層に先土器時代のナイフ形石器を主体とする石器群の遺物が出土し、第Ⅳ層には礫群が検出されている。

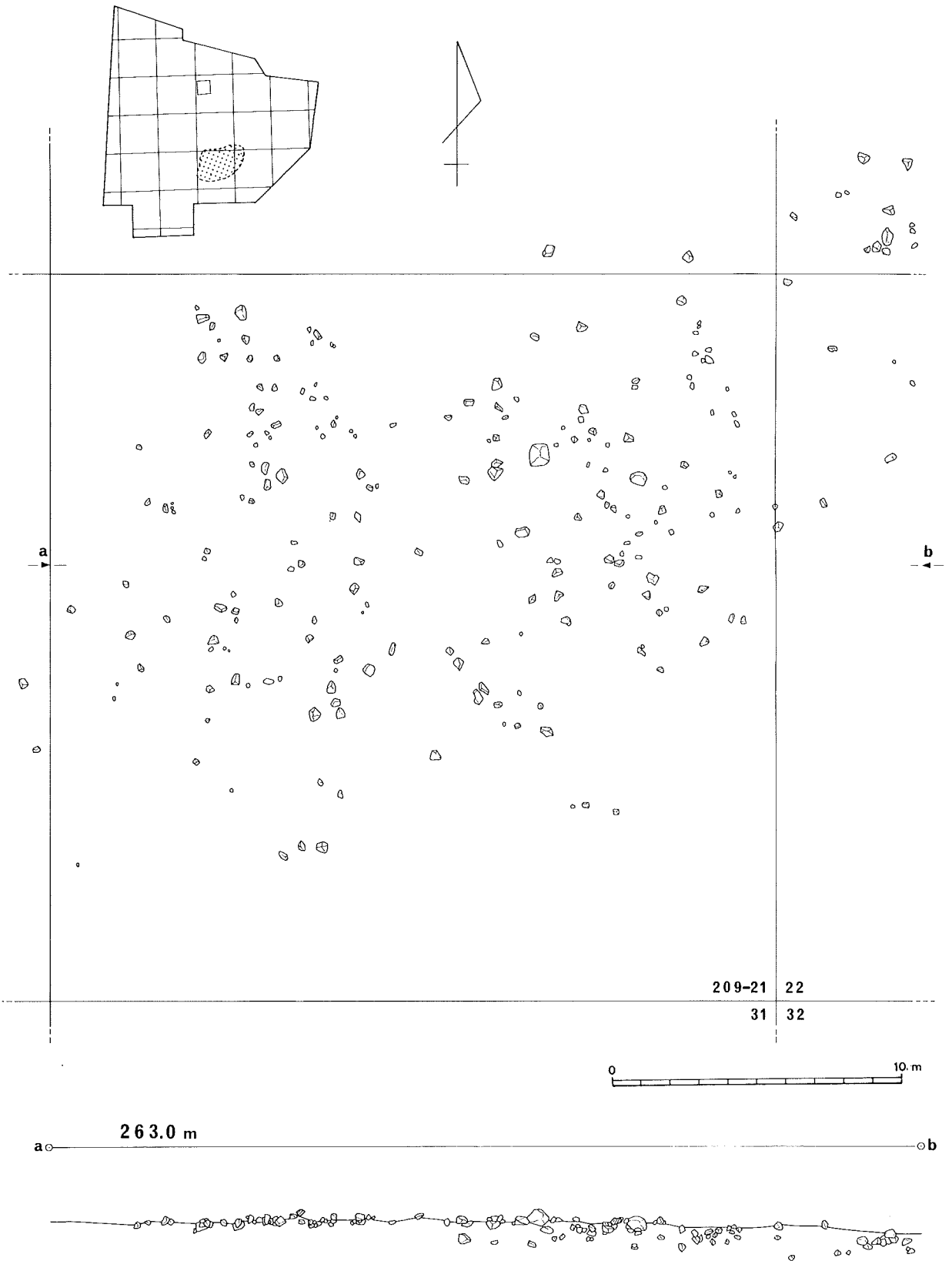


Fig. 7 B地点第IV層下面檢出礫群

Tab. 2 先土器時代出土石器の石材別・層位別一覧表

層位	器種				ナイフ形石器	台形様石器	削器	搔器	使用痕ある剥片	加工痕ある石器	彫器	剥片尖頭器	三稜尖頭器	尖頭状石器	石核	敲石	剥片	碎片	原石	計
	黒曜石	曜石	石	種																
第Ⅶ層	黒曜石 A																			
	黒曜石 B																			
	黒曜石 C																			
	黒曜石 他																			
	安山岩 他																		3	3
小計																			3	3
第Ⅵ層	黒曜石 A	2							1					1	2	17				23
	黒曜石 B	3												1	7	43				54
	黒曜石 C	1																		1
	黒曜石 他													1						1
	安山岩 他	1		1		1											1			4
小計	7		1		1	1							3	10	62				85	
第Ⅴ層	黒曜石 A	1	1									1	2	4	37					46
	黒曜石 B												1	12	90					103
	黒曜石 C												1	3	7					11
	黒曜石 他														2	5	1			8
	安山岩 他															1				1
小計	1	1									1	4	21	140	1				169	
第Ⅳ層	黒曜石 A	6	1					1					2	23	232					265
	黒曜石 B													2	11					13
	黒曜石 C	2						1					1	6	19					29
	黒曜石 他													2	2					4
	安山岩 他			1										5	1					7
小計	8	1	1					2					3	38	265				318	
合計					16	2	2	1	3			1	10	69	467	4				575

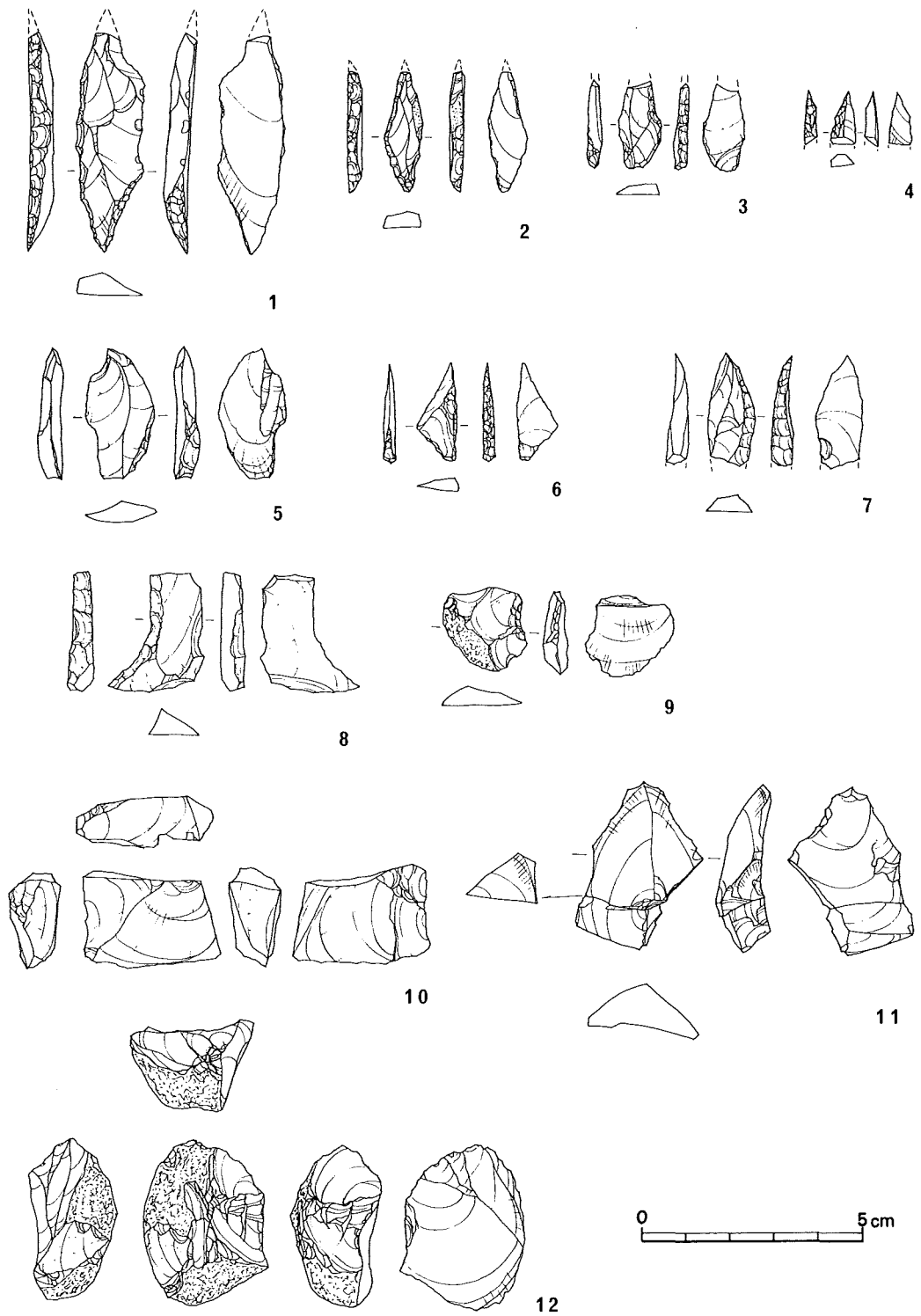


Fig. 8 先土器時代の出土石器① (第VI層)

(3) 先土器時代

① 遺 構

礫群遺構 209-21, 22区の第Ⅳ層下面に、径5 m程の範囲に礫群が検出された。
(Fig. 7) 礫は拳大位の玄武岩がほとんどで、一箇所に集中するのではなく、その範囲に散乱する状況であったが、礫が火熱を受けた痕跡は肉眼的観察では明らかではなかった。

この礫群の性格については、調理用の炉跡的なものと考えられなくもないが、このような第Ⅳ層面での礫群の検出は、百花台遺跡群や魚洗川A遺跡の調査でも同様な状況下で検出されている。

両遺跡での礫群の在り方は、広範囲に分布し、立地する丘陵部分の西側への傾斜面へ向って、細長く帯状の礫群が波状に集中する傾向が見られることから、自然的要因での堆積も考えられるので、魚洗川B遺跡での在り方も同様な状況とも考えられる。

② 出土遺物

先土器時代の遺物は第Ⅵ層～第Ⅳ層に出土し、第Ⅵ層～第Ⅳ層に575点、範囲確認調査で74点、表土、表採に10点の総数659点が出土した。

第Ⅵ層出土石器

ナイフ形石器 ナイフ形石器は二側縁加工のもの(1～4, 6)と一側縁加工のもの
(Fig. 8-1～7) (5, 7)がある。

1, 2, 4は縦長剥片を素材に利用し、長くて斜行する刃部を残し、他に刃潰し加工を施したもので、先端部および基部を欠損している。また、接合資料が1+4の1例ある。

3, 6は切出形状を呈し、刃部の長さが器長に比べて長く、平坦な基部を作り出すもの。

5, 7は剥片の一側縁部に刃潰し加工を施し、他方を刃部に利用したもので、縦長剥片を素材とする。先端部および基部を欠損している。1, 4は黒曜石A製, 3, 6, 7はB製, 3はC製, 5は安山岩製。

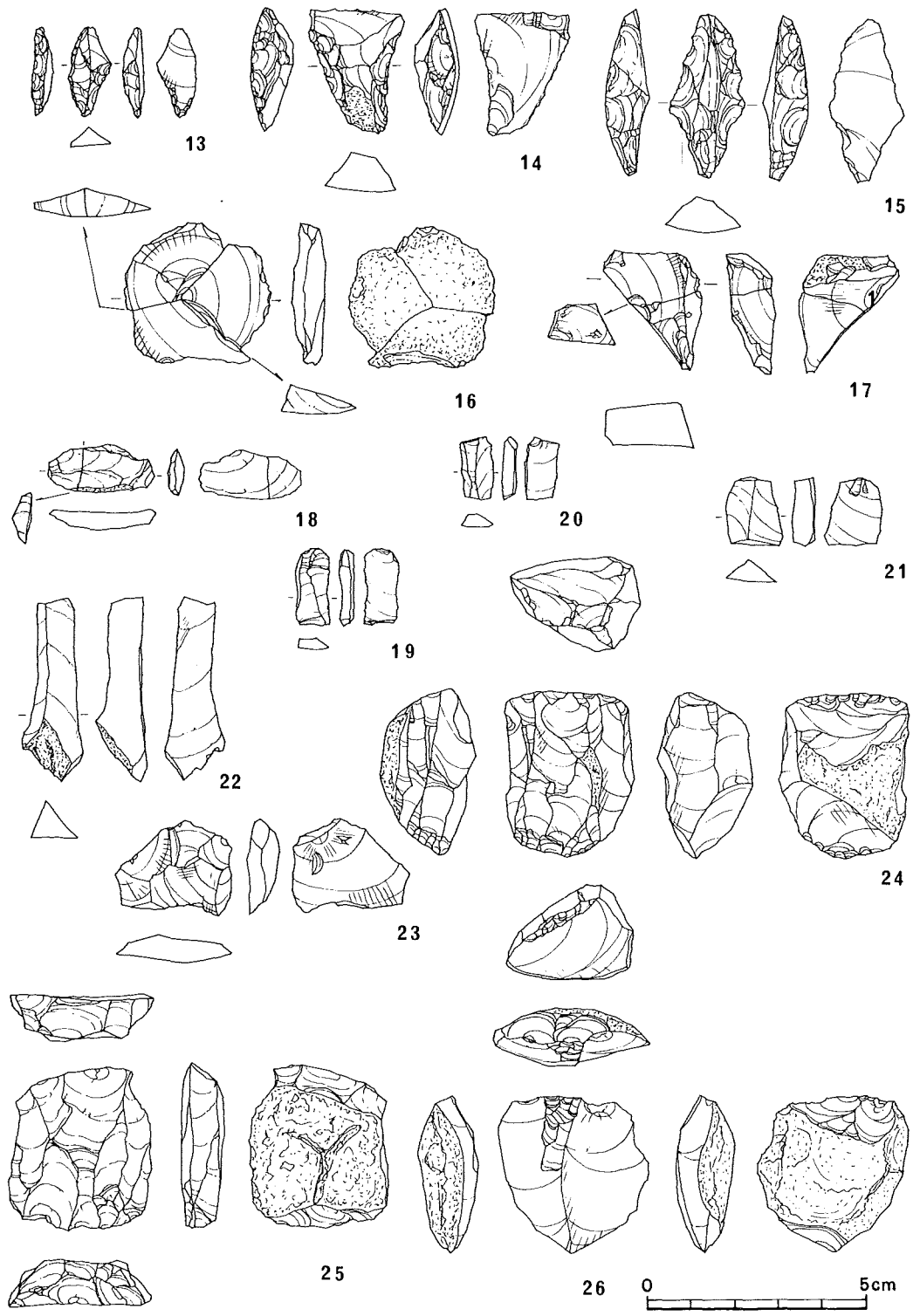


Fig. 9 先土器時代の出土石器② (第V層)

削 器 安山岩製の横長剥片（折断剥片）を利用し、側縁部の両端に入念な加工を施し、刃部として利用したもの。（Fig. 8-8）

加工痕ある石器 剥片の両端に微細な加工を施しているが、胴部を欠損している。黒曜石A製。（Fig. 8-9）

使用痕ある剥片 図示していないが、横長の折断剥片を利用し、先端部に刃こぼれが著しいものが1点出土する。安山岩製。

石 核 10は横長の不定形剥片剥離を目的とした石核である。打面は平坦で、（Fig. 8-10, 12）一側縁部からの剥片剥離痕が残り、打面調整を施したものが背面に残る。黒曜石B製。

12は不定形の縦長剥片剥離を目的とした石核で、打面は平坦であるが、微細な調整を施している。側・背面に自然面を残している。黒曜石A製の小円礫を利用。

その他に、横長の不定形剥片剥離を目的とした石核が1点出土した。打面は自然面である。背・一側面部に自然面を残す。その他の黒曜石製。

剥 片 接合資料で、不定形の分厚い横長剥片が3分割された内の2点で、黒曜石A製。（Fig. 8-11）

第V層出土石器

ナイフ形石器 13は小形で切出形状を呈し、斜行する刃部をもち、刃部の長さが器長（Fig. 9-13）に比べて短く、基部裏面加工を施す。黒曜石A製。

台形様石器 不定形剥片の打面部を一側縁に用い、側縁部の2次加工は鈍角で主要（Fig. 9-14）剥離面側より施し、器表面に平坦な調整剥離を施している。また、自然面を一部残す。器裏面の刃部に刃こぼれがみられる。黒曜石A製。

三稜尖頭器 縦長剥片を利用し、主要剥離面側より2次加工を施したもので、器表面（Fig. 9-15）面に稜上より調整剥離を施したもの。黒曜石C製。

石 核 24, 25は上下両設打面をもつ縦長剥片剥離を目的とした石核である。（Fig. 9-24~26）24は調整打面で、微細な調整を施し、器表面および背面部に自然面を

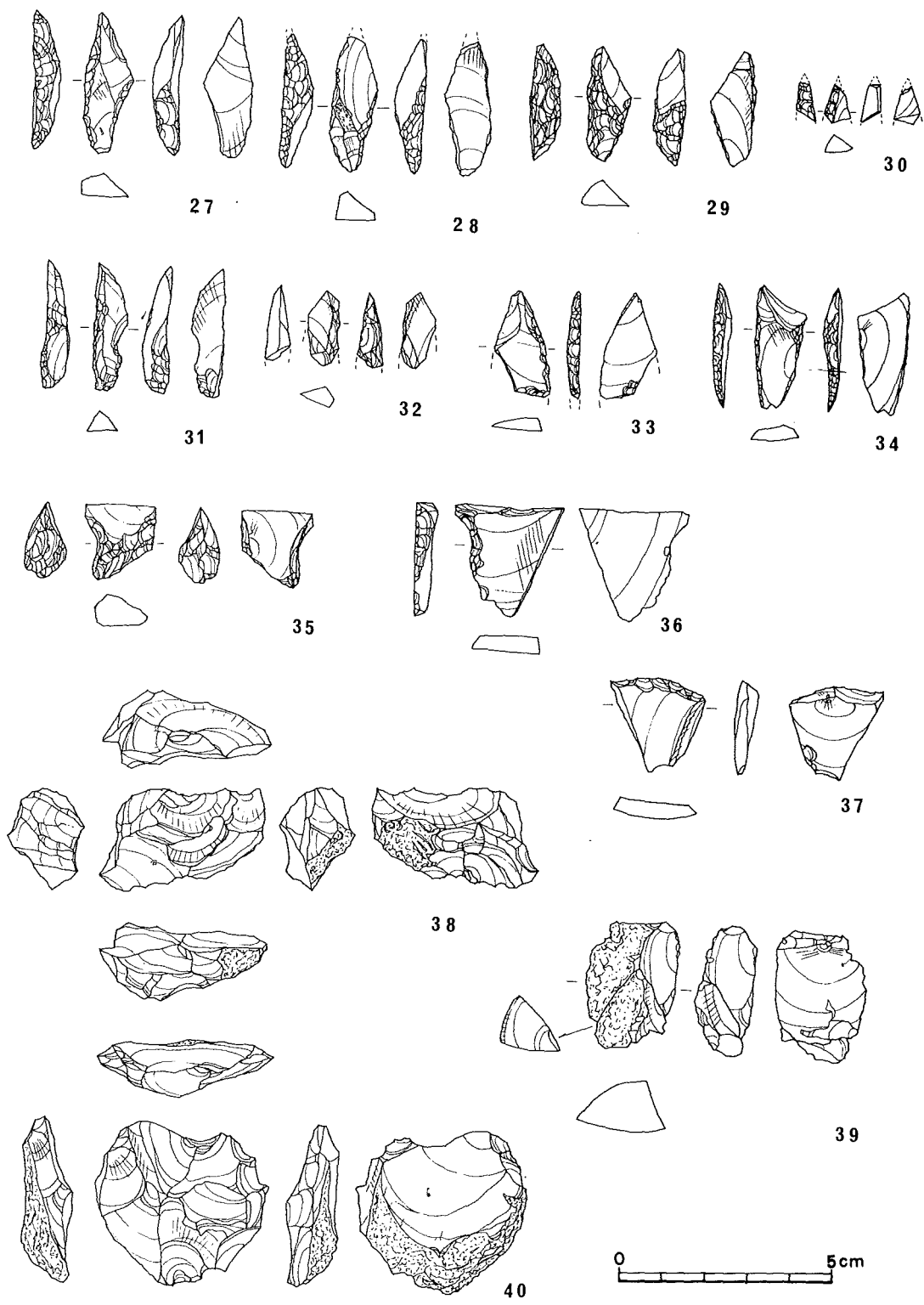


Fig. 10 先土器時代の出土石器③ (第IV層)

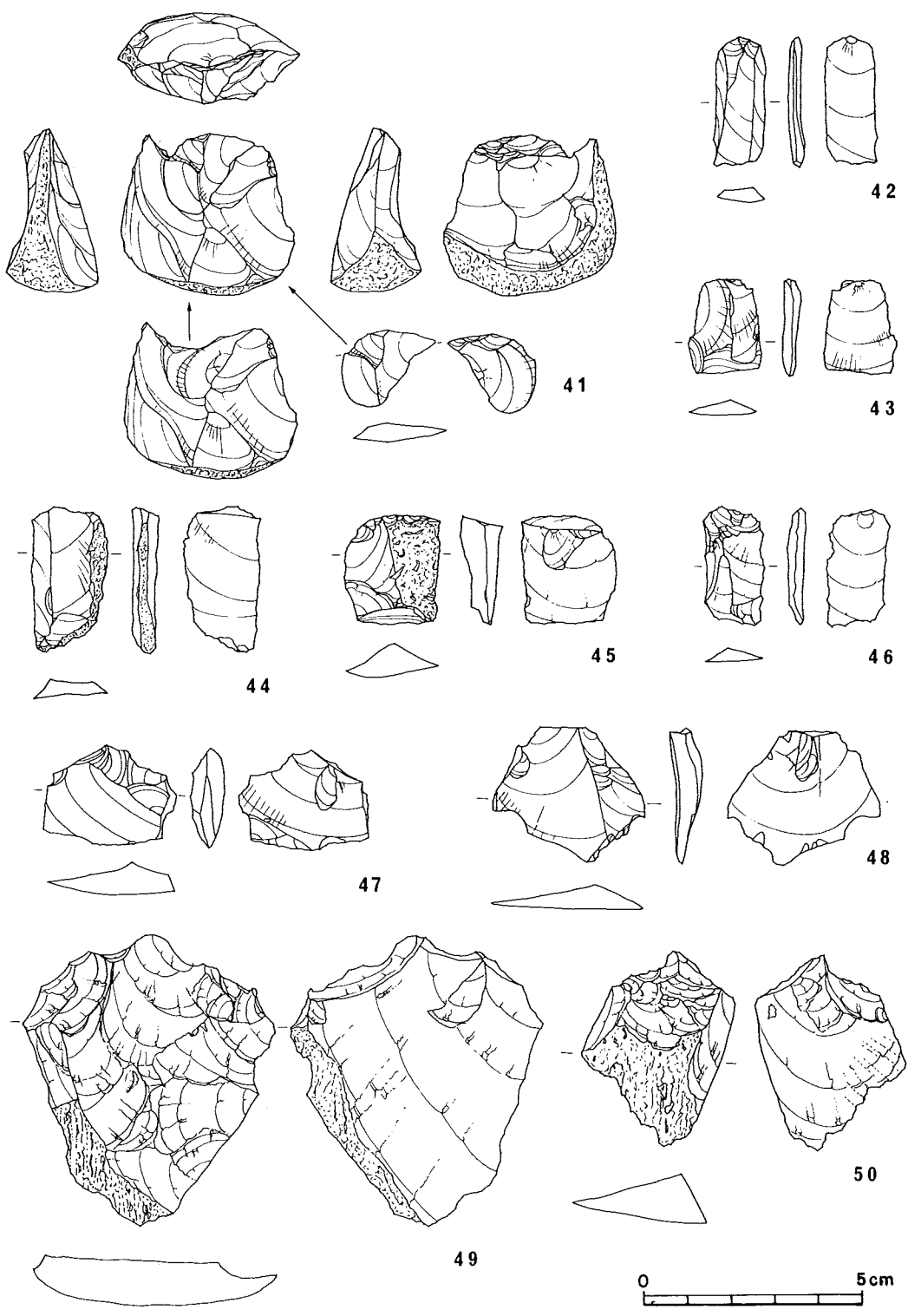


Fig. 11 先土器時代の出土石器④ (第IV層)

残す。黒曜石 A 製。

25は扁平で、打面は調整が施されている。背面部に自然面を残す。黒曜石 B 製。

26は縦長の不定形剥片剥離を目的とした石核で、打面は調整され、側・背面部に自然面を残す。黒曜石 C 製。

また、図示していないが、打面は自然面で、背面にも自然面を残す不定形剥片剥離を目的とした石核が 1 点出土。黒曜石 A 製。

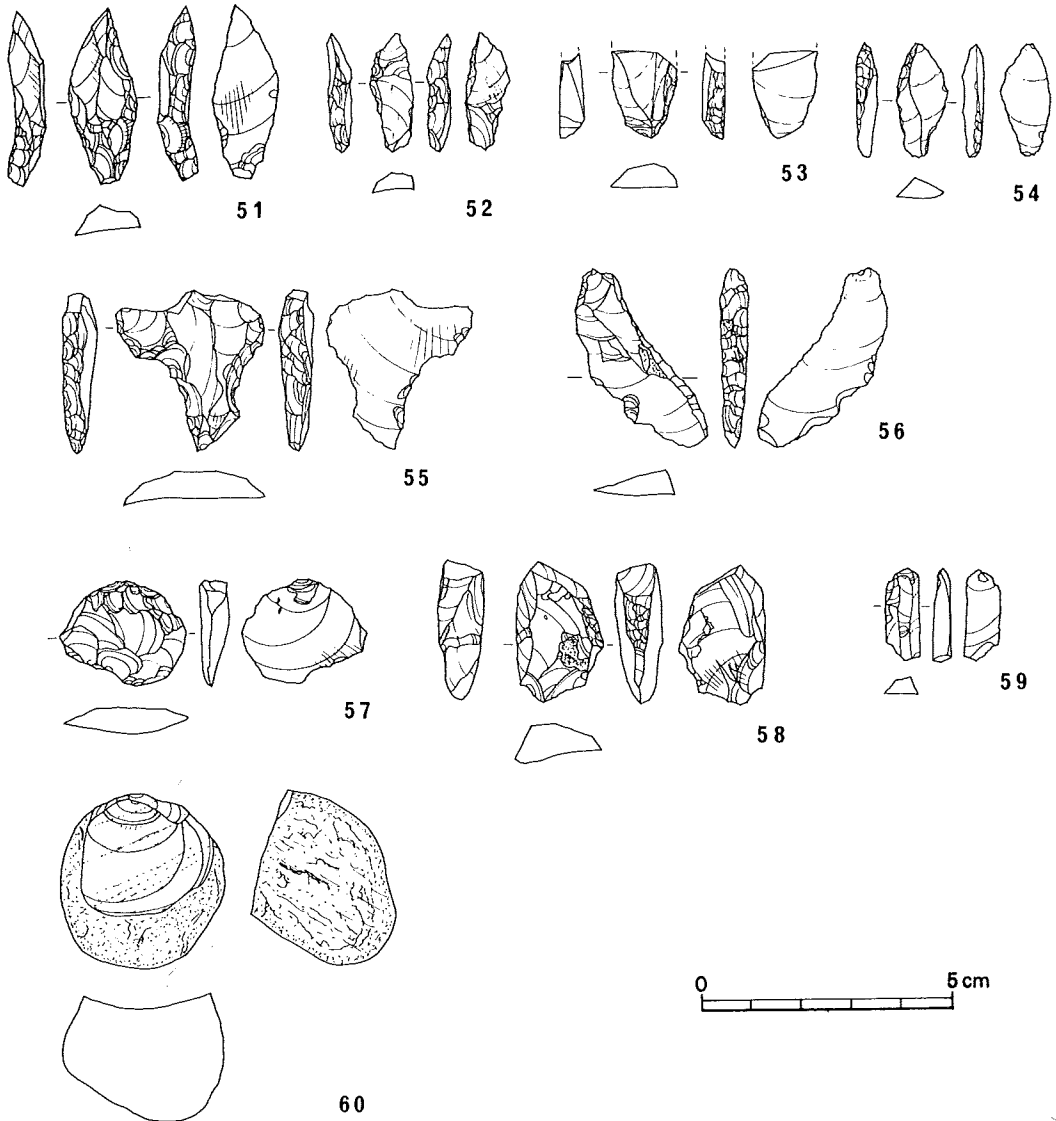


Fig. 12 先土器時代の出土石器⑤ (表土・表採)

剥片 16～18は折断面接合で、16は一次剥片が3分割され、17、18は2分割されたもの。16は黒曜石A製、17はその他の黒曜石、18は黒曜石B製。

19～22は縦長剥片の一端あるいは両端が折断されたものである。19～22は黒曜石B製。

23は不定形剥片で、先端部を欠損している。黒曜石A製。

打面は調整を受けたもの19、21と平坦なもの23がある。

第Ⅳ層出土石器

ナイフ形石器 27～34は二側縁加工のナイフ形石器である。

(Fig. 10—27～34) 縦長剥片を素材に利用し、斜行する刃部を残し、他は刃潰し加工を施したもので、器長と刃部の長さの割合がほぼ半々で、細身の三角形状を呈すもの28、30、31、32がある。31は基部裏面加工を施している。また、28、30、32は先端部および胴、基部を欠損している。

切出形状で、斜行した刃部をもち、刃部の長さが器長に比べて短いもの27、29、33、34がある。基部裏面加工は施していない。33は一側縁部および基部を欠損している。29の2次加工は器裏面および主要剥離面側より施している。28～33は黒曜石A製、他は黒曜石C製。

台形様石器 不定形剥片の打面部を1側縁部に利用し、他方は粗い2次加工を器表面から、基部は主要剥離面側より施している。器表面は両側縁部より、平坦な調整を施し整えている。胴部が肥厚する。黒曜石A製。

加工痕ある石器 幅広の不定形剥片（折断剥片）を利用したもので、剥片の一端に入念な2次加工を施したもの。36は黒曜石A製、37は黒曜石C製。

石核 (Fig. 10—37、40 Fig. 11—41) 38、40、41は幅広の不定形剥片剥離を目的とした石核で、打面は平坦である。

38、40は背面部に自然面を残す。黒曜石A製。

41は接合資料で、剥片が接合する。先端部に自然面を残し、器表、裏面より剥片剥離を施している。断面は三角形状を呈し、打面と剥片剥離面のなす稜は線状を呈す。黒曜石C製。

剥片 39は接合資料で、器表面に自然面を残す。黒曜石A製。

(Fig. 10—39, 42, 43, 44, 45, 46は縦長剥片剥離を目的に剥離されたものと考えら
れる。 Fig. 11—42～50)

47～50は幅広の不定形剥片。

打面部は平坦のもの(45, 47, 48, 50), 調整されたもの(43, 49)線
状のもの(42, 46)がある。黒曜石A製(42, 43), B製(45～47), C
製(44, 48), 安山岩製(49, 50)。

表土・表採石器

ナイフ形石器

Fig. 12—51～54, 56)

51～54は二側縁加工のナイフ形石器である。

51, 53は縦長剥片を素材に利用し, 斜行する刃部を残し, 他は刃潰し
加工を施したもので, 柳葉形状を呈す。53は先端部欠損。

52, 54は小形で切出形状を呈し, 斜行する刃部をもち, 刃部の長さが
器長に比べて短い。

56は素材の剥片の打面を基部に利用し, 一側縁の2次加工は器表面お
よび主要剥離面側より施し, 他方は主要剥離面側より施している。刃部
に刃こぼれが著しい。黒曜石A製(51, 56), 黒曜石B製(52～54)。

削器

(Fig. 12—55)

幅広の剥片を利用し, 両側縁に入念な2次加工を施したものの。黒曜石
A製。

細石核ブランク

(Fig. 12—58)

58は甲板部分は幅狭で短かく, 扁平な舟底状を呈す。一側面側より一
撃で甲板部分を作り出し, 他方より細かな調整加工を施している。また,
側面部分の調整加工は施されていない。その他の黒曜石製。

細石刃

(Fig. 12—59)

59は頭部の部分で, 3条の剥離痕が残る。幅0.7cm×現長1.8cmを測る。
黒曜石C製。

剥片

(Fig. 12—57)

57は幅広の剥片で, 器表面に先端部から調整剥離を施している。黒曜
石C製。

原石

(Fig. 12—60)

現長約2cm, 幅1.1cmの黒曜石Cの小石礫で, 石核の打面作出のために,
一方より一撃を加え平坦面を作出している。

Tab. 3 先土器時代出土石器の石材別・層位別一覧表

地点	区	層位	器種				ナイフ形石器	台形様石器	加工痕ある石器	石核	剥片	砕片	計	
			黒曜石	曜石	石	種								
A 地点	202 I 区	第VI層	黒曜石	曜石	A							3	3	
			黒曜石	曜石	B								4	4
			黒曜石	曜石	C								1	1
			黒曜石	曜石	他									
			小計										8	8
	70 区	第V層	黒曜石	曜石	A			1		1		24	26	
			黒曜石	曜石	B							17	17	
			黒曜石	曜石	C							2	2	
			黒曜石	曜石	他							2	2	
			小計						1		1		45	47
B 地点	209 I 区	第IV層	黒曜石	曜石	A	1							1	
			黒曜石	曜石	B					1				1
			黒曜石	曜石	C	1								1
			黒曜石	曜石	他			1						1
			小計				2		1		1			4
	1 区	第V層	黒曜石	曜石	A					1			1	
			黒曜石	曜石	B									
			黒曜石	曜石	C									
			小計								1			1
C 地点	207 I 6-56 区	第IV層	黒曜石	曜石	A	1				1	5	7		
			黒曜石	曜石	B					2	1	3		
			黒曜石	曜石	C	1							1	
			黒曜石	曜石	他							1	1	
			小計				2				3	7		12
	209 I 51 区	第IV層	黒曜石	曜石	A									
			黒曜石	曜石	B						1	1		
			黒曜石	曜石	C									
			小計									1		1
	206 I 6 区	第IV層	黒曜石	曜石	A									
			黒曜石	曜石	B									
			黒曜石	曜石	C				1				1	
			小計							1				1
合計						4	2	1	6	61	74			

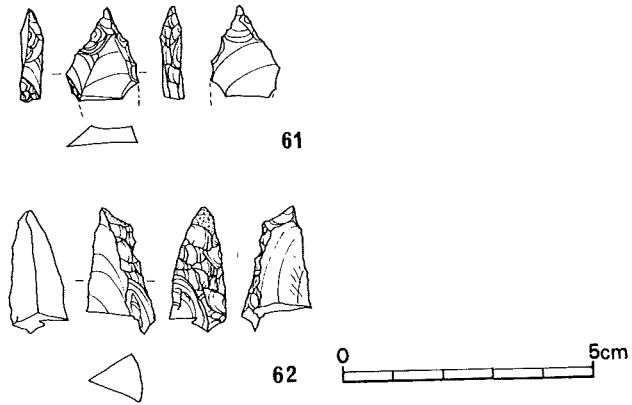


Fig. 13 C地点先土器時代の出土石器⑥(第IV層)

範囲確認調査・C 61, 62はナイフ形石器で、共に胴部を欠損している。
 地点第IV層出土石器 61は207-6区に出土した。斜行する刃部をもち、切出形状を呈すもの
 (Fig.13-61, 62) で、刃部の長さが器長に比べて短い。黒曜石C製。
 62は横長に幅広の剥片を素材とし、側縁部の2次加工は器表面および
 主要剥離面側より施すもの。黒曜石A製。

Tab. 4 先土器時代出土石器の計測表

挿 番 号	出土 地区	出土 層位	器 種	石 材	形 態 分 類	計 測 値 (cm g)				備 考
						全 長	最大巾	厚 さ	重 量	
8-1	209	VI	ナイフ形石器	黒曜石A	I-2	4.95	1.5	0.55	4.05	
2	208	〃	〃	〃 C	I-2	2.7	0.9	0.35	0.85	魚B VI-2群
3	205	〃	〃	〃 B	II-3	2.0	0.95	0.2	0.65	魚B VI-1群
4	209	〃	〃	〃 A	I-2	1.26	0.55	0.25	0.05	
5	208	〃	〃	安山岩	IV-2	3.0	1.5	0.6	1.85	魚B VI-2群
6	205	〃	〃	黒曜石B	II-3	2.2	1.0	0.3	0.40	魚B VI-1群
7	205	〃	〃	〃 B	IV-2	2.6	1.1	0.4	1.0	魚B VI-2群
8	208	〃	削 器	〃 B		2.75	1.1	0.55	2.30	
9	208	〃	加工痕ある石器	〃 A		1.85	1.8	0.5	1.55	魚B VI-2群
10	208	〃	石 核	〃 B		2.2	2.85	1.0	6.45	魚B VI-2群
11	208	〃	剥 片	〃 A		3.8	2.85	1.25	6.70	接 合
12	205	〃	石 核	〃 A		3.75	2.2	1.7	15.95	魚B VI-1群
9-13	205	V	ナイフ形石器	〃 A	II-2	2.5	0.9	0.45	0.65	魚B V-1群
14	209	〃	台形様石器	〃 A		2.8	2.2	0.9	4.60	

挿 番 号	出 土 地 区	出 土 層 位	器 種	石 材	形 態 分 類	計 測 値 (cm g)				備 考
						全 長	最大巾	厚 さ	重 量	
9-15	208	V	三稜尖頭器	黒曜石C		3.7	1.7	0.8	3.95	魚BV-5群
16	208	〃	剝片	〃C		3.4	3.2	0.8	6.40	魚BV-1群, 接合
17	208	〃	〃	〃A		2.6	2.05	1.1	4.60	魚BV-4群, 接合
18	205	〃	〃	〃B		1.1	2.4	0.5	0.90	魚BV-1群, 接合
19	205	〃	〃	〃B		1.8	0.7	0.25	0.40	魚BV-1群
20	205	〃	〃	〃B		1.45	0.75	0.25	0.35	魚BV-1群
21	205	〃	〃	〃B		1.6	1.15	0.5	0.85	魚BV-1群
22	205	〃	〃	〃B		4.2	1.1	0.85	2.90	魚BV-1群
23	208	〃	〃	〃A		2.2	2.1	0.65	3.00	魚BV-3群
24	205	〃	石核	〃A		3.8	2.9	2.2	21.10	魚BV-1群
25	205	〃	〃	〃B		3.75	3.25	1.1	21.15	魚BV-1群
26	205	〃	〃	〃C		3.6	3.55	1.3	13.55	魚BV-1群
10-27	209	IV	ナイフ形石器	〃C	II-2	3.3	1.1	0.55	1.55	魚BIV-1群
28	209	〃	〃	〃A	I-3	3.2	0.9	0.65	1.65	魚BIV-1群
29	206	〃	〃	〃A	II-2	2.7	1.1	0.6	1.55	魚BIV-1群
30	206	〃	〃	〃A	I-3	0.9	0.65	0.4	0.15	魚BIV-1群
31	206	〃	〃	〃A	I-3	3.0	0.75	0.45	1.0	魚BIV-1群
32	205	〃	〃	〃A	I-3	0.65	1.75	0.7	0.55	魚BIV-1群
33	209	〃	〃	〃A	II-2	2.45	1.15	0.3	0.80	
34	205	〃	〃	〃C	II-2	2.8	1.15	0.4	1.30	
35	208	〃	台形様石器	〃A		1.75	1.25	0.75	2.05	魚BIV-4群
36	208	〃	加工痕ある石器	〃A		2.6	1.6	0.4	2.30	魚BIV-1群
37	208	〃	〃	〃C		2.2	1.9	0.45	1.75	魚BIV-3群
38	205	〃	石核	〃A		2.4	4.0	1.85	10.5	魚BIV-1群
39	208	〃	剝片	〃A		3.0	2.1	1.2	6.55	魚BIV-2群, 接合
40	206	〃	石核	〃A		3.85	4.1	1.4	14.85	魚BIV-1群
11-41	208	〃	〃	〃C		1.7	2.1	0.45	22.10	魚BIV-4群, 接合
42	208	〃	剝片	〃A		2.95	1.1	0.35	1.15	魚BIV-1群
43	208	〃	〃	〃A		2.2	1.6	0.3	1.05	魚BIV-2群
44	209	〃	〃	〃C		3.3	1.7	0.45	2.8	
45	205	〃	〃	〃B		2.5	2.1	0.8	3.75	
46	209	〃	〃	〃B		2.7	1.3	0.3	1.05	
47	209	〃	〃	〃B		2.3	2.85	0.85	3.15	
48	206	〃	〃	〃C		3.1	3.45	0.5	4.45	魚BIV-1群
49	206	〃	〃	安山岩		6.65	5.6	1.1	47.6	魚BIV-1群
50	209	〃	〃	〃		4.5	3.15	1.15	13.25	
12-51		表土	ナイフ形石器	黒曜石A	I-1	3.0	1.3	0.6	2.15	
52		〃	〃	〃B	II-2	2.3	0.85	0.4	0.65	
53		〃	〃	〃B	I-1	1.85	1.3	0.5	1.10	
54		〃	〃	〃B	II-2	2.2	0.95	0.35	0.60	
55		〃	削器	〃A		3.2	2.8	1.15	3.45	
56		〃	ナイフ形石器	〃A		3.6	1.65	0.5	2.90	
57	202	〃	剝片	その他の 黒曜石		2.1	2.55	0.55	2.40	
58		〃	細石核ブランク	〃		2.8	1.7	0.8	4.25	
59		〃	細石刃	黒曜石C		1.9	0.65	0.35	0.40	
60	208	〃	原石	〃C		3.5	3.2	2.55	33.65	
13-61	207	IV	ナイフ形石器	〃C	II-2	1.85	0.9	0.4	0.80	C地点
62	207	〃	〃	〃A	I-3	1.95	1.1	0.95	2.10	C地点

③ B地点の遺物分布状況

出土遺物は第Ⅶ層に3点、第Ⅵ層に85点、第Ⅴ層に168点、第Ⅳ層に318点の総数575点を数える。

遺物集中範囲は第Ⅵ層～第Ⅳ層にかけて存在し、ナイフ形石器を主体とする石器群が出土している。

遺物集中範囲は第Ⅵ層に2群、第Ⅴ層に5群、第Ⅳ層に4群の計11箇所を数える。

第Ⅵ層の遺物集中範囲（魚BⅥ-1～4群）

- 魚BⅥ-1群 205-89, 90, 99, 100区に位置する。径3.5m程の範囲に集中する。
ナイフ形石器（3, 6, 7）3点、石核（12）1点、剥片7点、碎片45点の総数56点が出土する。黒曜石B製が大半で、他はA製である。
- 魚BⅥ-2群 208-20, 29, 30, 39, 40区に位置する。長径11m、短径7m程の楕円形状の範囲に分布する。
ナイフ形石器（2, 5）2点、加工痕ある石器（9）1点、石核（10, 12）2点、剥片1点、碎片11点の計17点が出土する。黒曜石A製、B製、C製、その他の黒曜石製、安山岩製。

第Ⅴ層の遺物集中範囲（魚BⅤ-1～5群）

- 魚BⅤ-1群 205-88, 89, 90, 98～100区に位置する。長径7m、短径3m程（北側については、既設道路工事の際に破壊されている）の範囲に集中する。
ナイフ形石器（13）1点、石核（24, 25, 26）4点、剥片11点、碎片69点の計85点が出土した。
接合資料が剥片+碎片、剥片+剥片+剥片（第Ⅳ層）の2例ある。黒曜石B製が大半で、他にA製、C製、その他の黒曜石製を利用している。
- 魚BⅤ-2群 208-20, 209-1区に位置する。径5m程の範囲に遺物が集中する。
剥片1点、碎片36点の計37点が出土する。全て黒曜石A製を利用している。
- 魚BⅤ-3群 208-29, 40区に位置する。径3m程の範囲に分布を示す。
碎片11点が出土。黒曜石A, B製を利用。
- 魚BⅤ-4群 208-39区に位置する。径3m程の範囲に分布を示す。
剥片3点、碎片13点の計16点が出土する。

接合資料が碎片+碎片（魚BⅣ-4群）が1例ある。黒曜石A製，C製，その他の黒曜石製を利用している。

魚BⅤ-5群 205-100, 206-91, 208-9, 10, 209-1 区に位置する。長径8 m, 短径2 m程の楕円形状に分布する。

三稜尖頭器（15）1点，剝片1点，碎片7点の計9点が出土する。黒曜石A製と他にC製，その他の黒曜石製を利用。

第Ⅳ層の遺物集中範囲（魚BⅣ-1～4群）

魚BⅣ-1群 205-100, 206-91, 208-10, 209-1区に位置する。径8 m程の円形状の範囲に分布する。

ナイフ形石器（27～32）6点，加工痕ある石器（36）1点，石核（38, 40）2点，剝片7点，碎片52点の計68点が出土する。黒曜石A製が大半で，他にB製，C製，安山岩製を利用。

魚BⅣ-2群 208-10, 20区に位置する。長径5 m, 短径3 m程の楕円形状の範囲に分布を示す。

剝片8点，碎片53点の計61点が出土する。

接合資料が剝片+碎片が1例ある。黒曜石A製が大半で，他にB製2点を利用。

魚BⅣ-3群 208-29, 30, 40区に位置する。径5 m程の円形状の範囲に分布を示す。

加工痕ある石器（37）1点，剝片5点，碎片93点の計99点が出土した。黒曜石A製で，他にC製1点を利用。

魚BⅣ-4群 208-39, 40区に位置する。長径6 m, 短径3.5 m程の楕円形状の範囲に分布を示す。

台形様石器（35），石核（41）の各1点，剝片13点，碎片56点の計71点が出土した。

接合資料が碎片+碎片（魚BⅤ-4群），石核+剝片（魚BⅣ-4群）の2例ある。黒曜石A製が多く，他にB製，C製，その他の黒曜石製を利用。

以上，第Ⅵ層～第Ⅳ層まで11箇所を数えるが，各層各群の遺存状況を見ると集中範囲は重層する群がほとんどである。

ただ，重層する群の中でも，遺存状況が密集する群と粗に分布する群がみられ，文化層として同一群として捉えることが出来る。また，群の中に主要器種を組成にもつものとそうでないものとに分れるようだ。

263m
262m
261m
260m

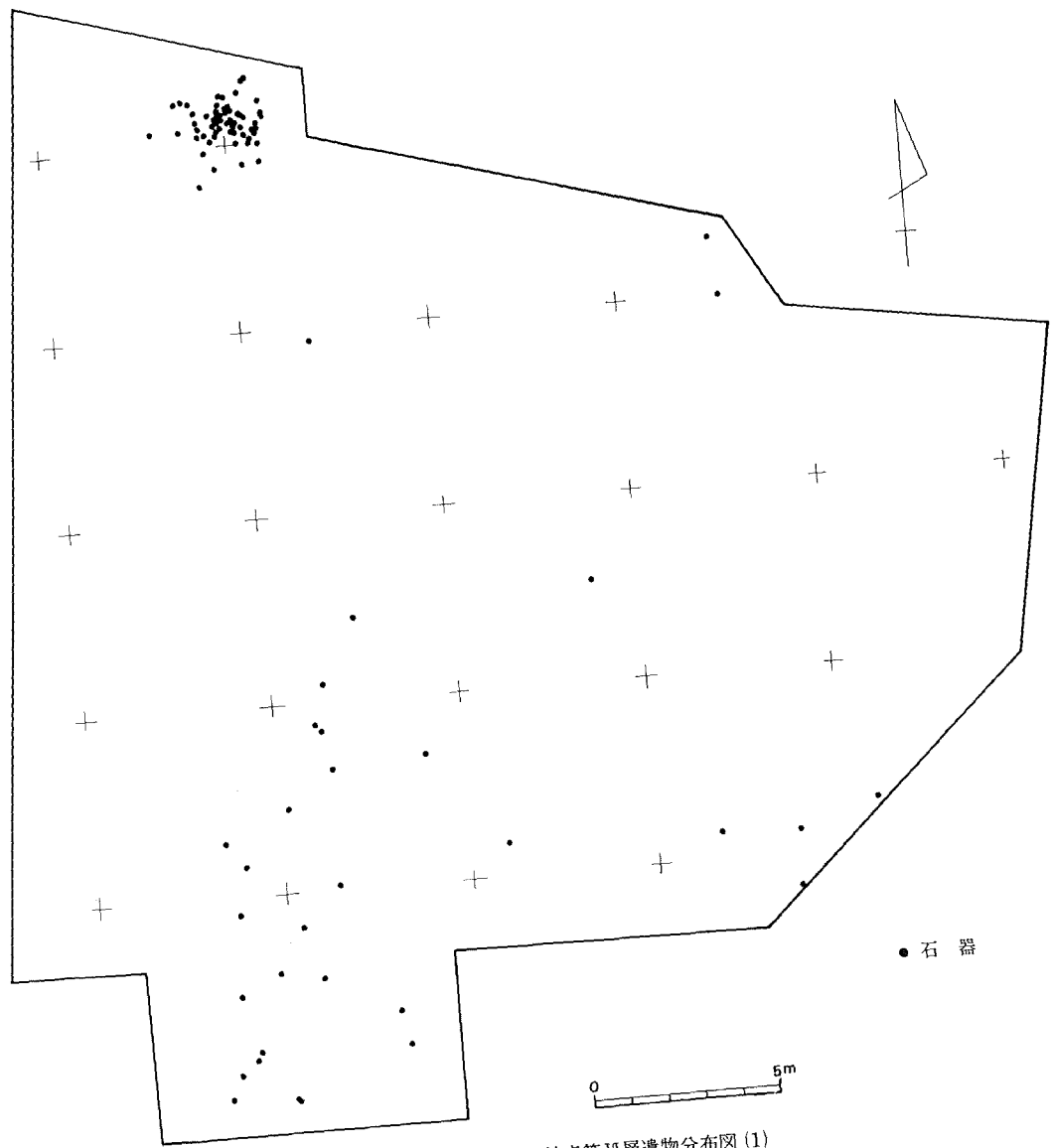
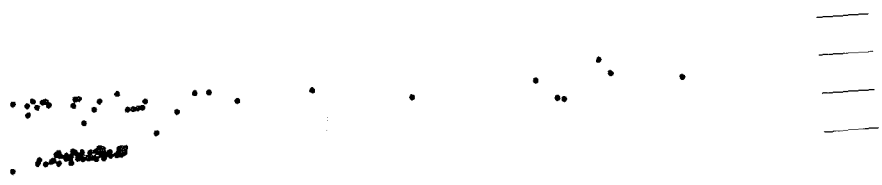


Fig. 14 B地点第VI層遺物分布圖(1)

263m
262m
261m

魚B VI-2 群とその他

262m
261m
260m

魚B VI-1 群

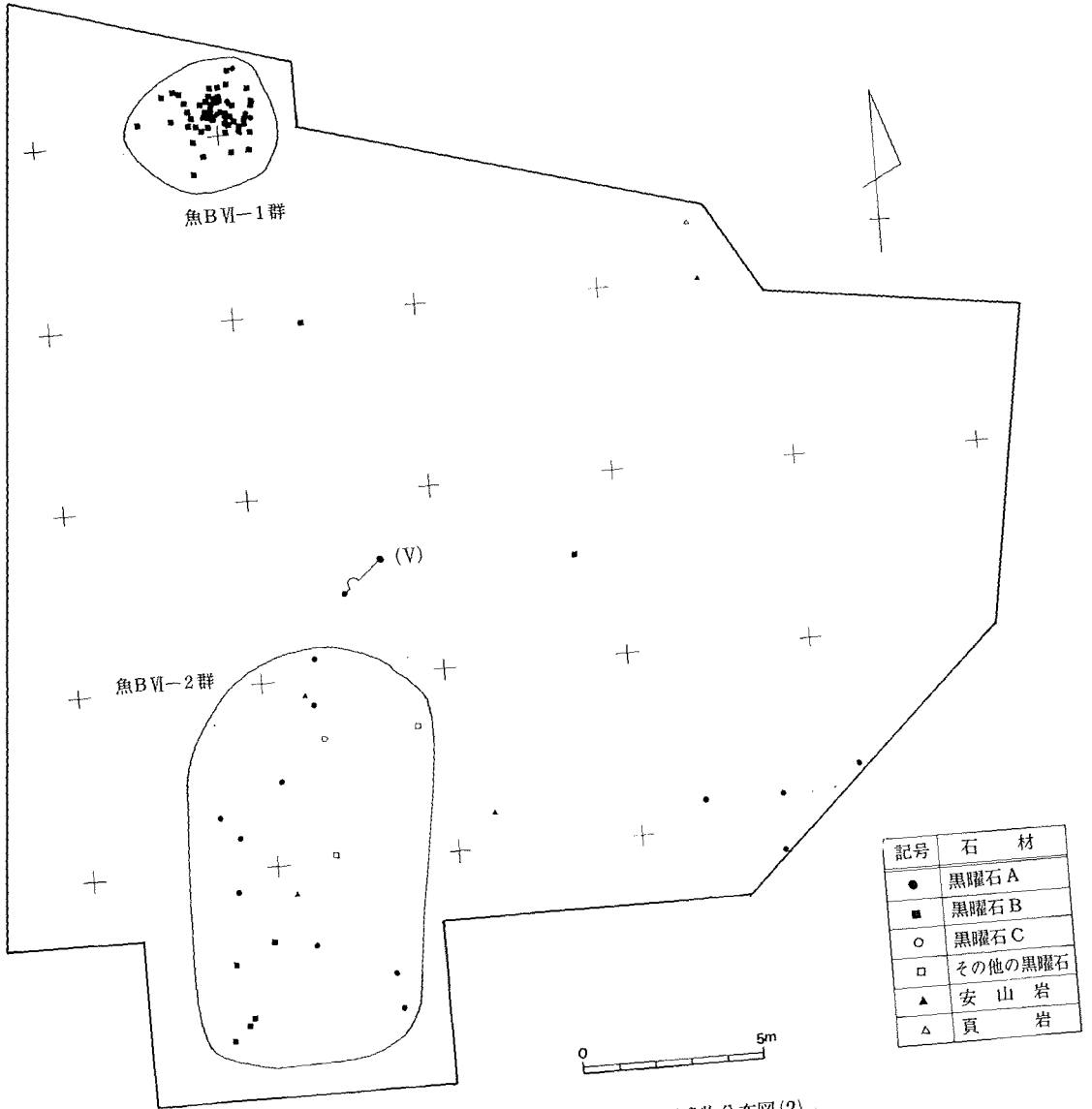


Fig. 15 B地点第VI層石材別遺物分布図(2)

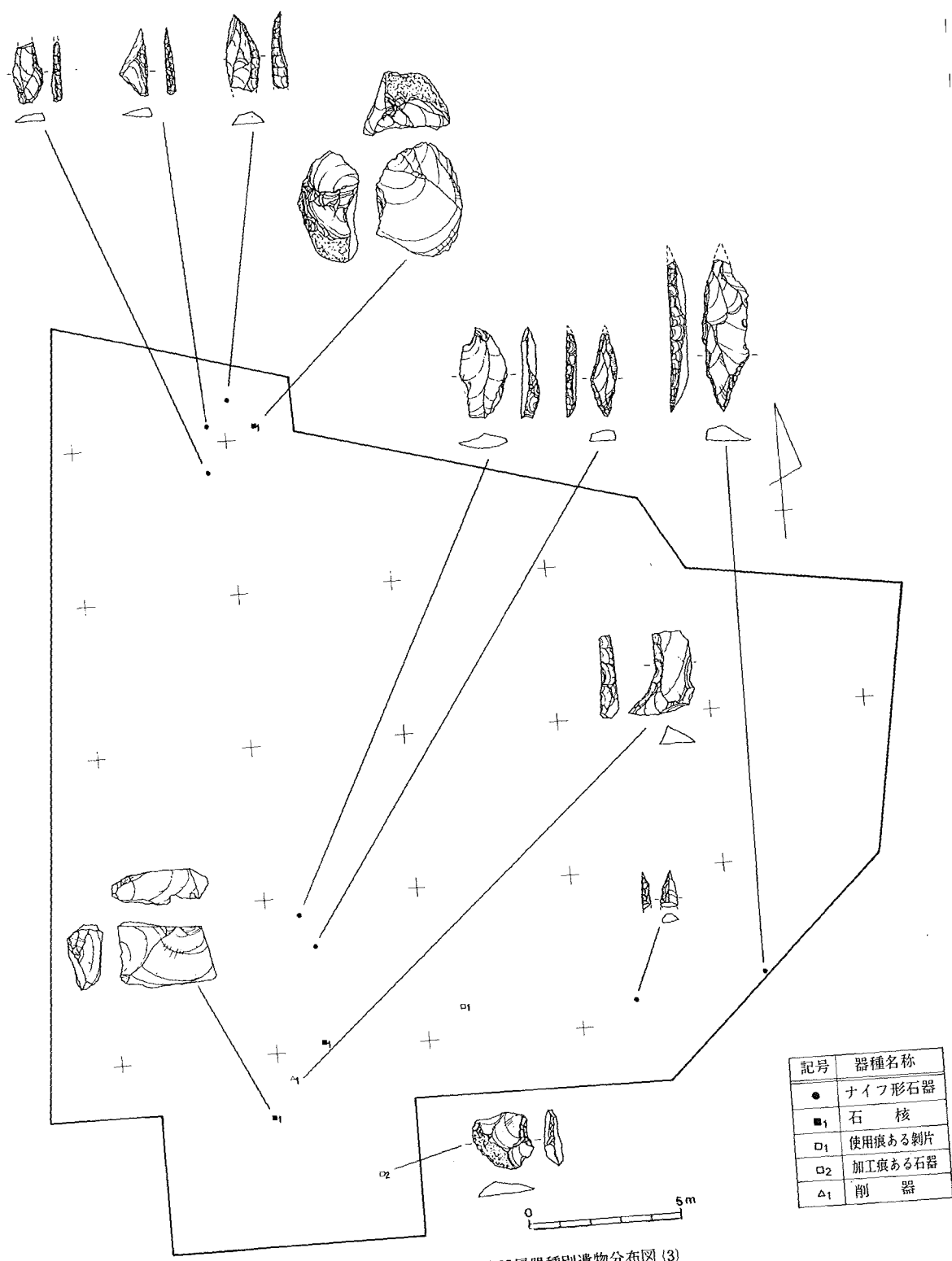


Fig. 16 B地点第VI層器種別遺物分布図(3)

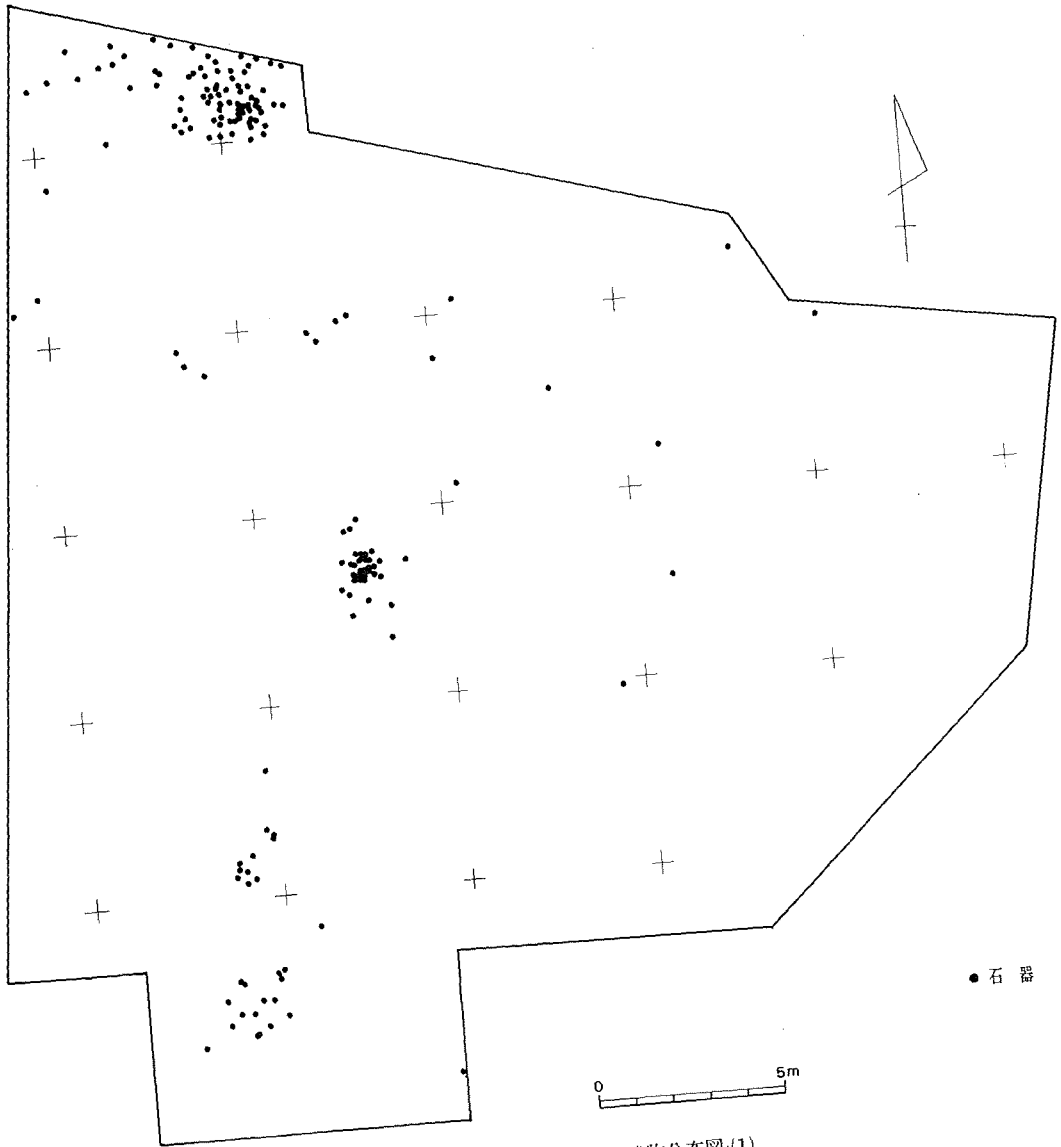
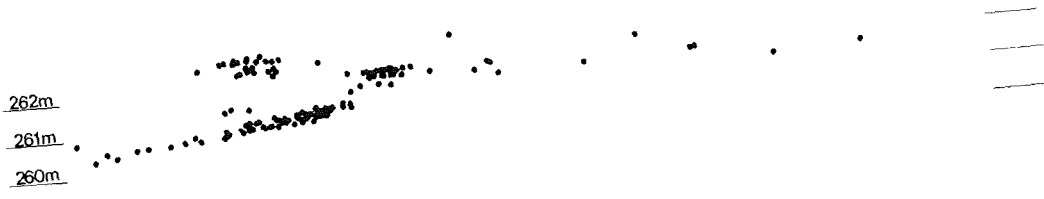


Fig. 17 B地点第V層遺物分布図(1)

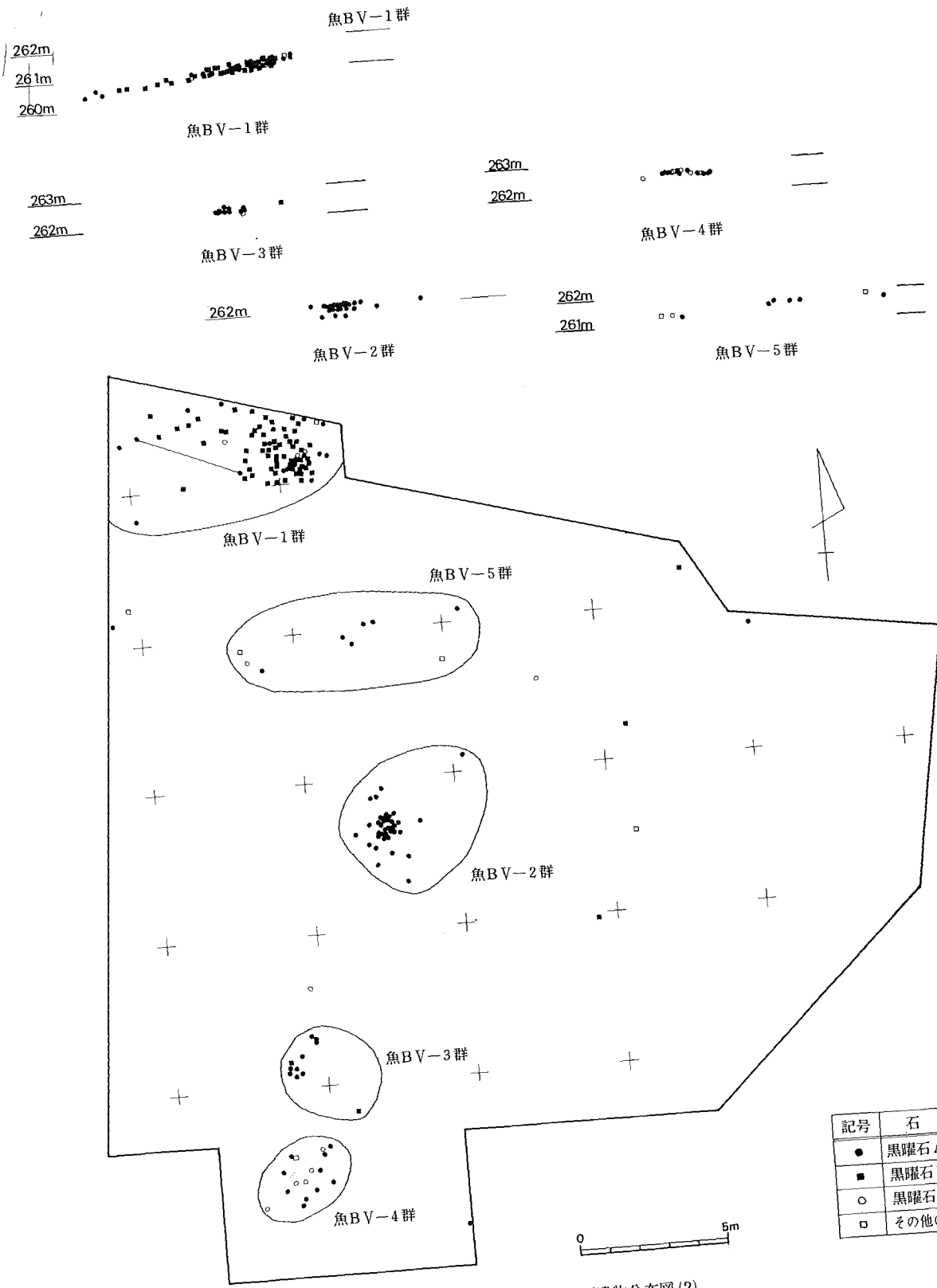


Fig. 18 B地点第V層石材別遺物分布図(2)

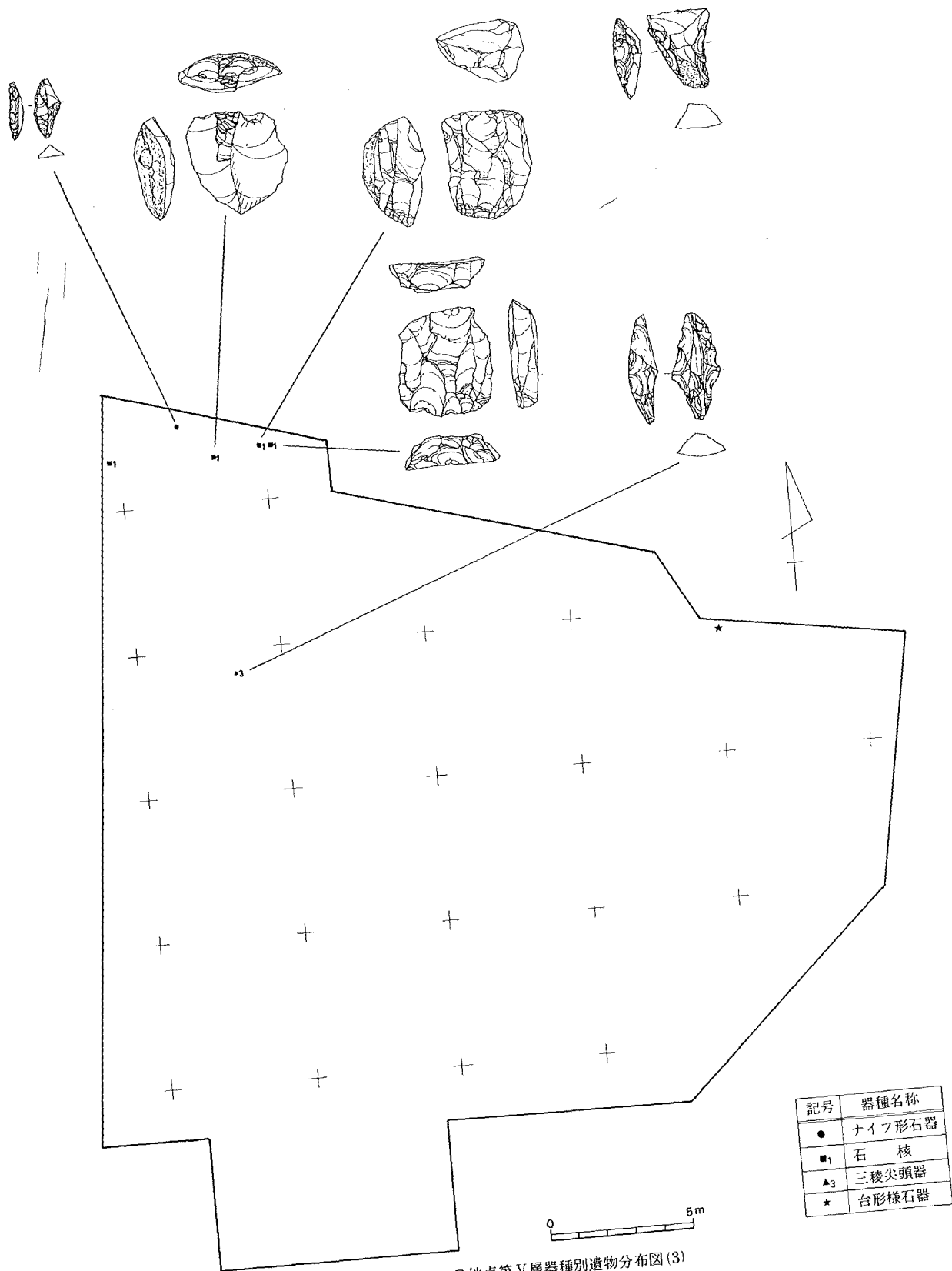
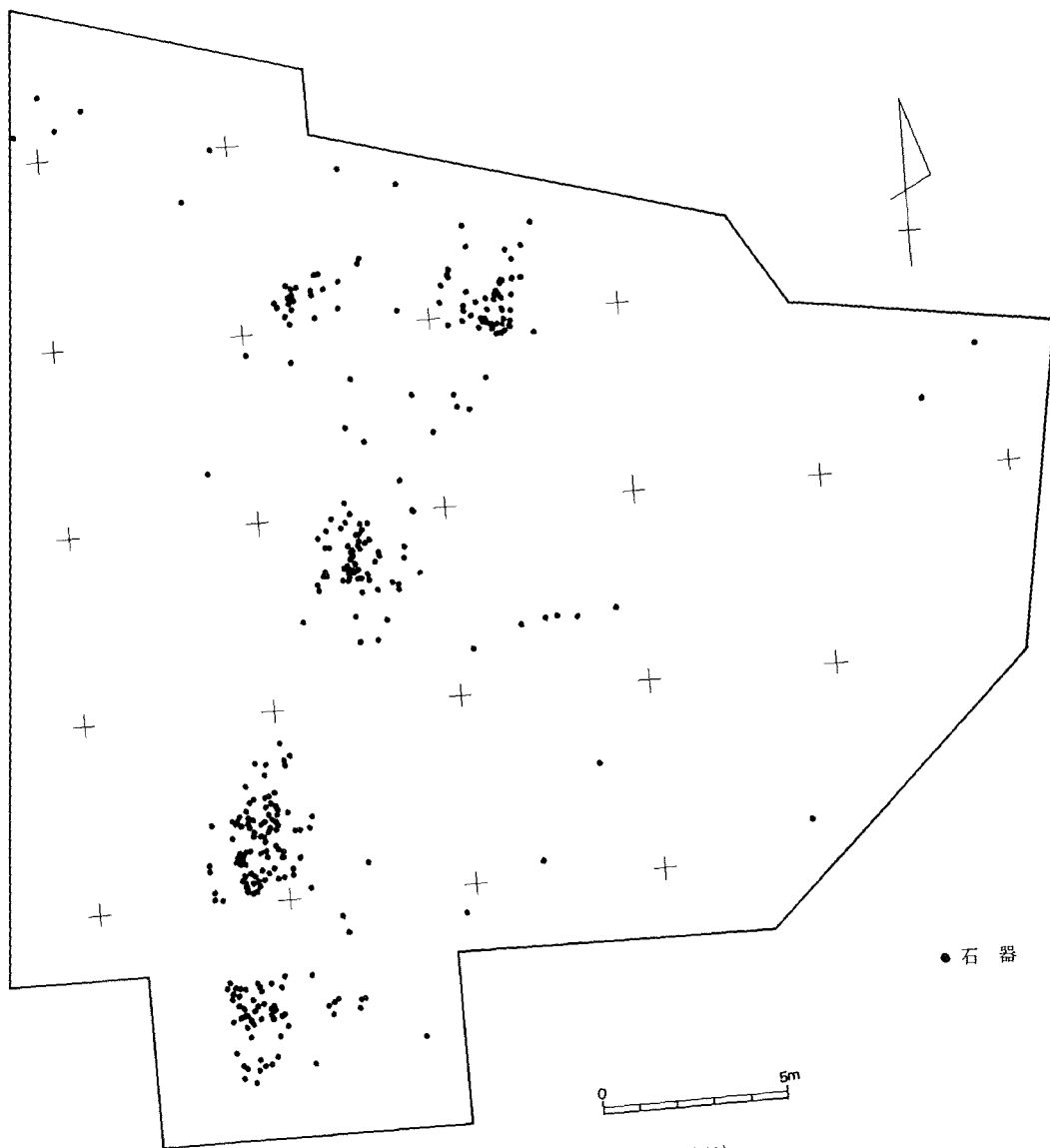


Fig. 19 B地点第V層器種別遺物分布図(3)

263m
262m
261m
260m



● 石器

Fig. 20 B地点第IV層遺物分布图(1)

263m

262m

魚BⅣ-1群

263m

262m

魚BⅣ-2群

263m

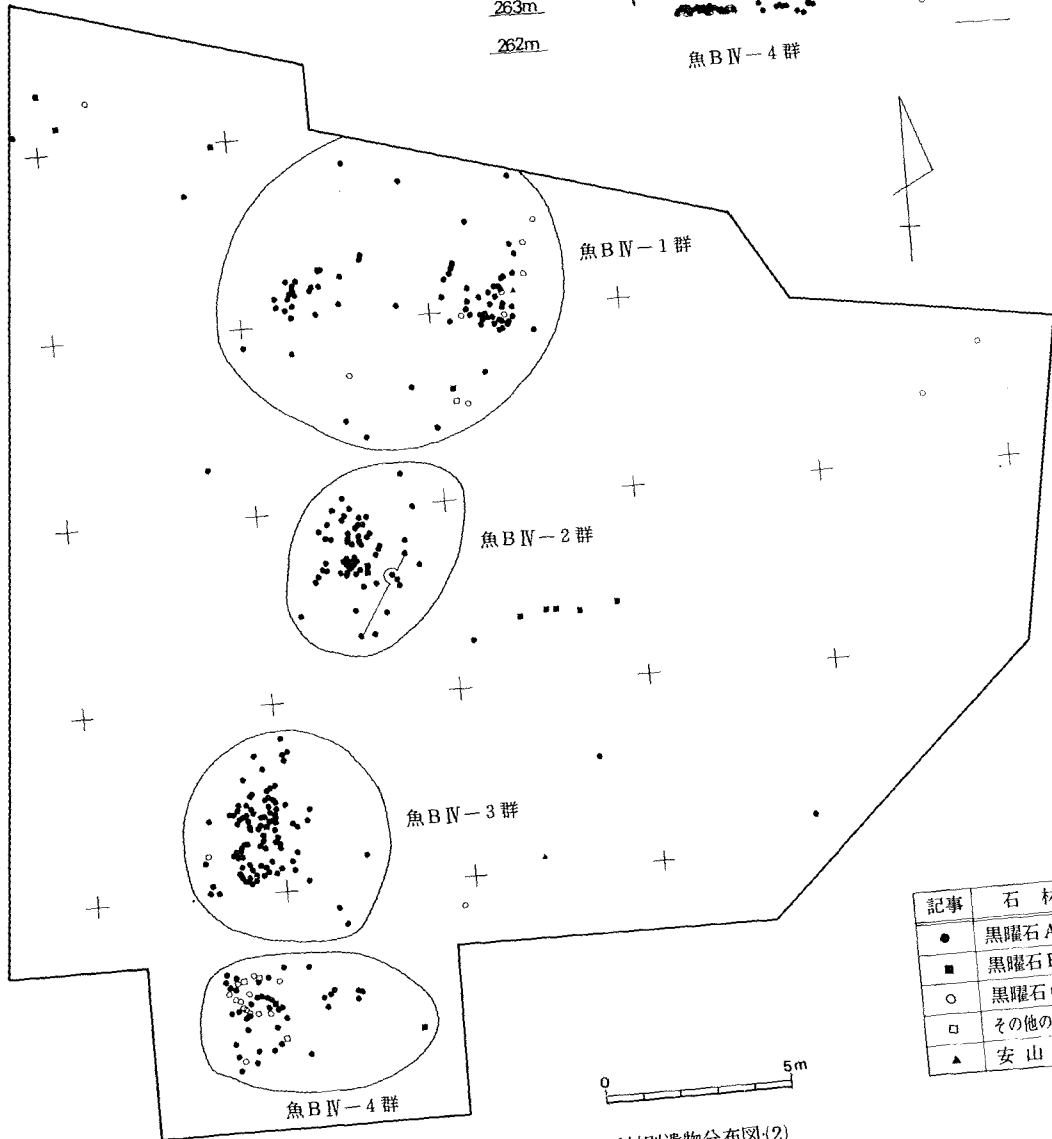
262m

魚BⅣ-3群

263m

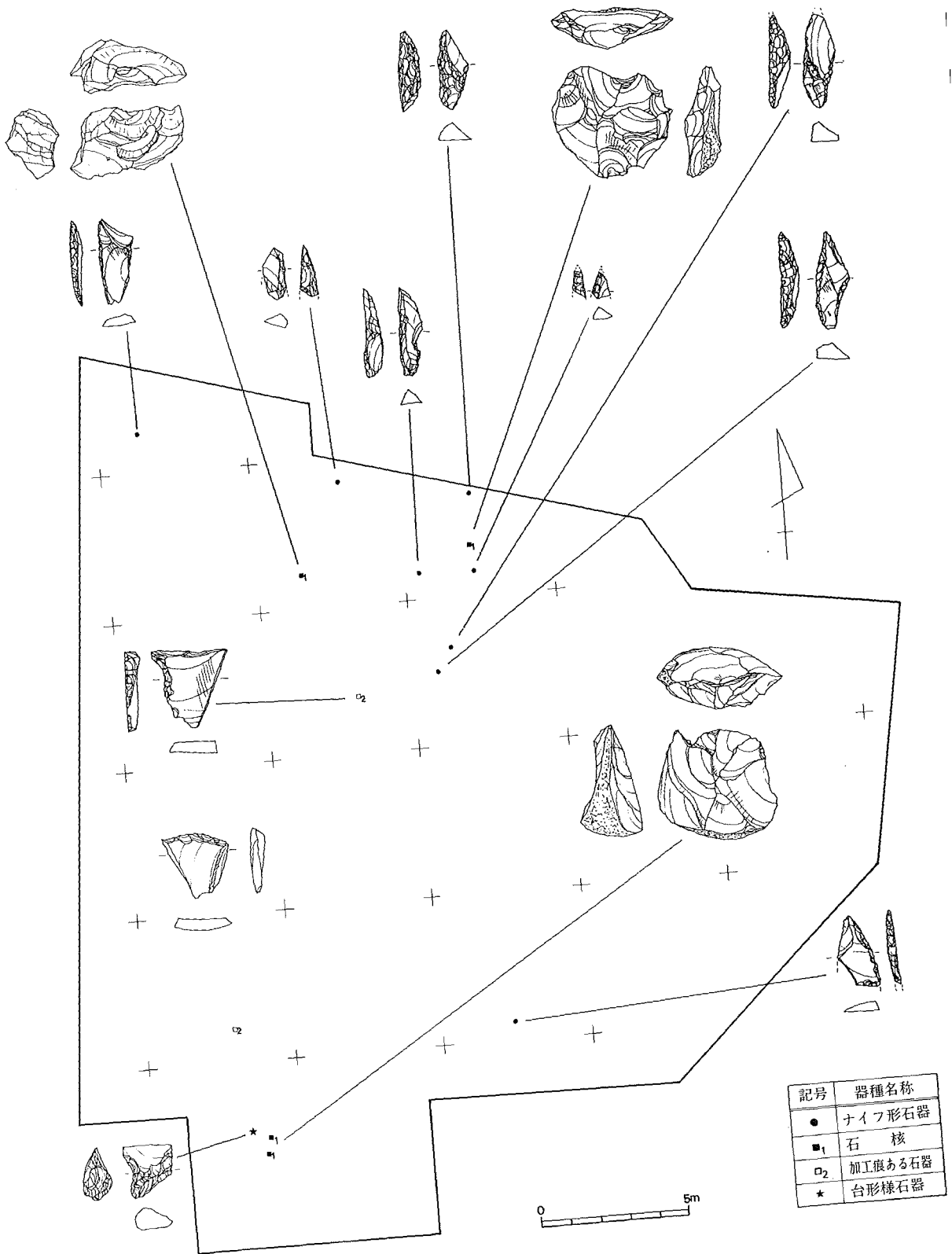
262m

魚BⅣ-4群



記事	石材
●	黒曜石A
■	黒曜石B
○	黒曜石C
□	その他の黒曜石
▲	安山岩

Fig. 21 B地点第Ⅳ層石材別遺物分布図(2)



記号	器種名称
●	ナイフ形石器
■ ₁	石核
□ ₂	加工痕ある石器
★	台形様石器

Fig. 22 B地点第IV層器種別遺物分布図(3)

重層群 第Ⅵ層～第Ⅳ層に重層する分布範囲をもつが、第Ⅵ層に遺物が集中する魚BⅥ-2群の1箇所を数える。(第Ⅵ層と第Ⅴ層～第Ⅳ層の遺物は別々の石器群と考えられる)。

第Ⅵ層～第Ⅴ層に重層する分布範囲をもつもの(魚BⅥ-1群+魚BⅤ-1群)の1箇所を数える。

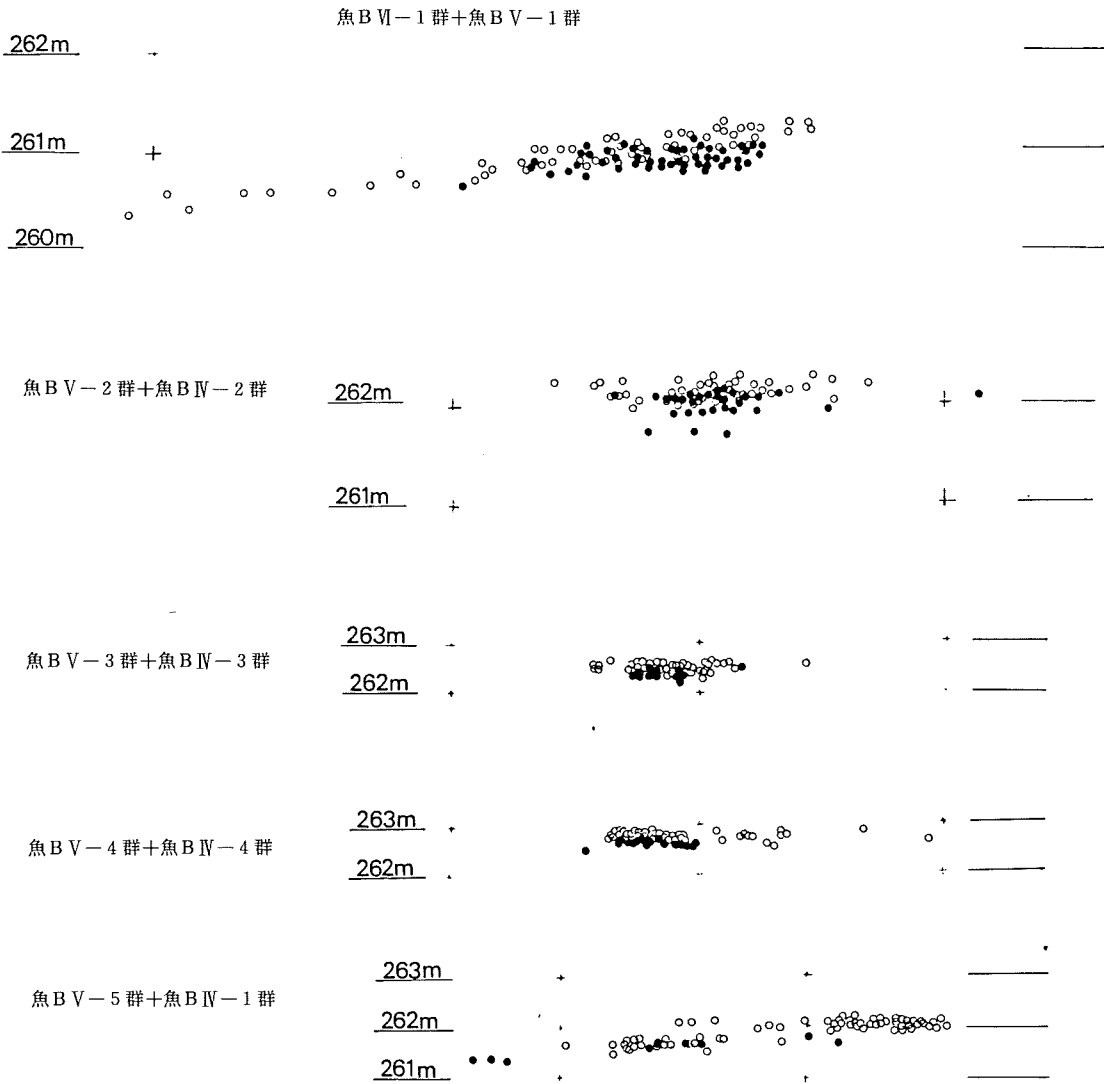


Fig. 23 B地点石器群の垂直分布図

第Ⅴ層～第Ⅳ層に重層する分布範囲をもつもの（魚BⅤ-2群+魚BⅣ-2群，魚BⅤ-3群+魚BⅣ-3群，魚BⅤ-4群+魚BⅣ-4群，魚BⅤ-5群+魚BⅣ-1群）4箇所を数える。

特に遺物が集中する群（魚BⅥ-1群，魚BⅤ-1群，魚BⅣ-1群，魚BⅣ-2群，魚BⅣ-3群，魚BⅣ-4群）は6箇所を数える。

利用石材 黒曜石Aを利用するもの魚BⅤ-2群と黒曜石Aを主に利用し，他の黒曜石を利用するもの（魚BⅤ-5群，魚BⅤ-3群，魚BⅣ-1群，魚BⅣ-2群～魚BⅣ-4群）6箇所を数える。

黒曜石Bを主に利用し，他の石材を利用するもの（魚BⅥ-1群，魚BⅤ-1群）2箇所を数える。

遺物接合例 同群内接合（魚BⅤ-1群2例，魚BⅣ-2群1例，魚BⅣ-4群1例）4例，他層他群接合（魚BⅤ-4群+魚BⅣ-4群）1例の5例がある。他層他群接合は第Ⅴ層～第Ⅳ層間の遺物が接合する。

石器組成 主要石器が遺存されない石器群は魚BⅤ-2群と魚BⅣ-2群である。

ナイフ形石器をもつ石器群は，（魚BⅥ-1群，魚BⅥ-2群，魚BⅤ-1群，魚BⅣ-1群）4箇所を数え，台形様石器をもつ石器群は（魚BⅣ-4群）1箇所，三稜尖頭器をもつ石器群は（魚BⅤ-5群）1箇所，石核をもつ石器群は（魚Ⅵ-1群，魚BⅥ-2群，魚BⅤ-1群，魚BⅣ-1群，魚BⅣ-4群）5箇所を数える。

B地点では，ナイフ形石器と台形様石器は同一石器群では伴出しない。

④ A・C地点の遺物分布状況

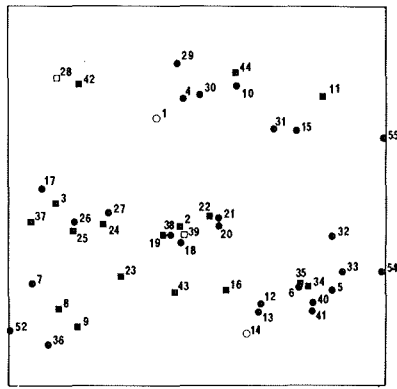
A地点 出土遺物は第Ⅵ層に碎片8点，第Ⅴ層に加工痕ある石器1点，剥片1点，碎片45点の総数55点を数える。

加工痕ある石器1点と少ない。黒曜石A～C製，その他の黒曜石製を利用。

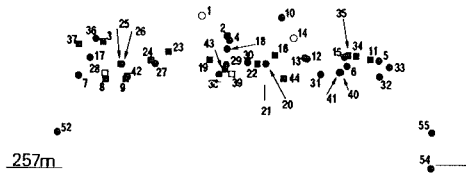
このA地点は，第Ⅵ層と第Ⅴ層に遺物が集中する傾向が窺われ，分布範囲も周囲に広がるようだ。

C地点 出土遺物は第Ⅳ層にナイフ形石器2点，剥片4点，碎片7点の総数13点を数える。ナイフ形石器は三角形と切出形状を呈すものが出土する。

B202-70区 (第V層)

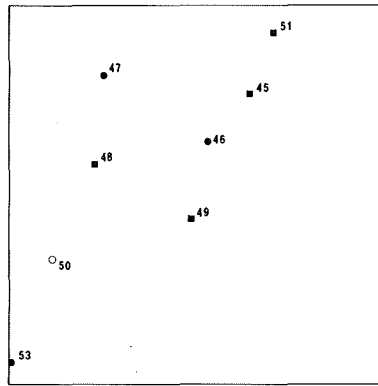


258m



257m

B202-70区 (第VI層)



257m



256m

記号	石 材
●	黒曜石 A
○	黒曜石 B
■	黒曜石 C
□	その他の黒曜石



Fig. 24 範囲確認調査・A地点遺物分布図(1)

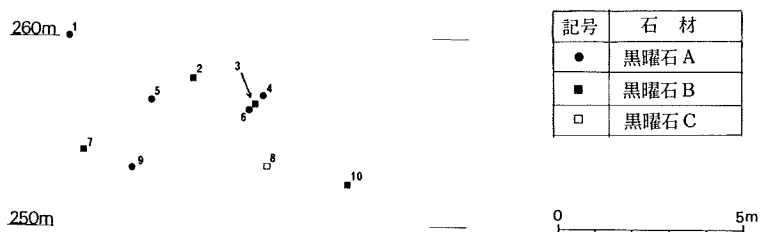
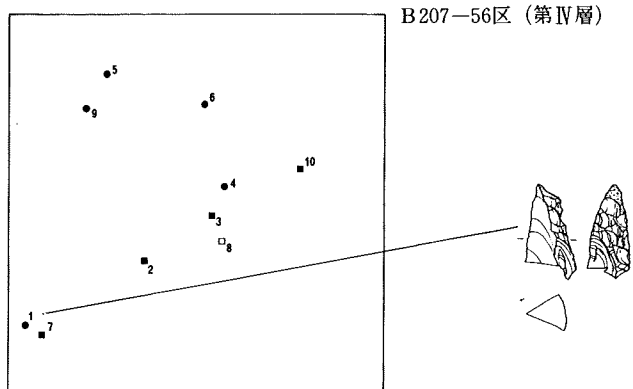


Fig. 25 範囲確認調査・C地点遺物分布図(2)

石材は黒曜石A～C製を利用している。

A地点と同様に分布範囲も周囲に広がるものと推察される。

(4) 縄文時代

層位のところでも述べたように、魚洗川B遺跡の土層の堆積状態は南側に隣接する百花台遺跡群と同様な層序をなす。従って縄文時代の層位として第Ⅱ層・黄褐色火山灰土層と第Ⅲ層・黒色火山灰土層が考えられた。しかし、本遺跡周辺はほとんど畑地で占められており、全体的に表土の直下は第Ⅳ層・混礫灰黒色土層であった。

以上のような状況下において、縄文時代の落とし穴遺構と考えられる土坑が1基と、すべて表土からではあるが、石鏃や石斧などの遺物も数点認められた。

① 遺 構

土 坑

(Fig. 26) B地点は、東側の丘陵より下った台地の平坦部に位置する。調査範囲のほぼ中央にあたる209-1区と209-11区にまたがり、第Ⅳ層の上面から確認された。

東西に主軸をもった長方形の平面プランを呈している。規模は東西130cm、南北65cm、深さ70cmを測る。壁面は全体的に若干ではあるがオーバーハングしている。坑床面はほぼ水平で15基の小ピットを有している。15基確認されたピットの内11基は、東西・南北にそれぞれ壁面と平行に一定の間隔をもって掘られており、あたかも何らかの企画性を持ち、意図的に行なっている可能性もある。しかもピット自体は深さには多少の違いはあれど、平面は直径が6cm前後でほとんど同様の規模である。

覆土の状況は、第Ⅰ層—暗黄褐色土で多少小礫を含む。第Ⅱ層—黄褐色土。第Ⅰ・Ⅱ層とも、本来の基本土層の第Ⅱ層にあたるもので、百花台遺跡などから検出した遺構もほぼ同じ覆土である。粘性・しまりに欠ける。第Ⅲ層—黒褐色土で粘性が多少ありややしまる。小ピットおよび坑床面の一部に認められた。

本土坑は、所謂、落とし穴（陥穽）的要素の遺構と考えられる。また時期を判別しうる遺物が全く出土しておらず判然としないが、隣接する魚洗川A遺跡において塞ノ神式土器が多量に出土しており、縄文時代の早期後半頃の所産である可能性が最も高いと考えられよう。

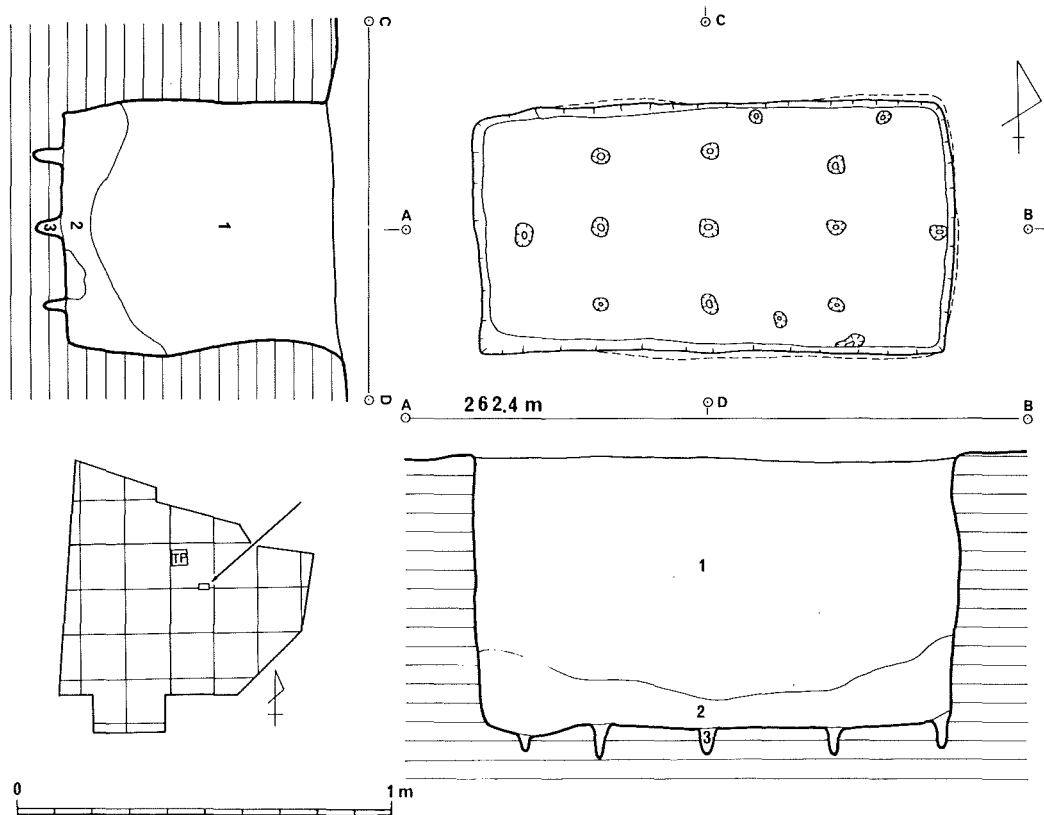


Fig. 26 縄文時代の遺構・土坑 (1/20)

本県では、落とし穴としての遺構（土坑）はあまり類例がない。百花台遺跡群においては未報告のものも含めて何基か検出している。また、これまでに報告されている九州横断自動車道建設に伴って緊急発掘調査された牛込A・B遺跡や諫早中核工業団地造成に伴った鷹野遺跡などにもその可能性を残すものがあると考えられる。今後再度の見直しとともに、調査時のより慎重な扱いが要求されよう。

長崎県教育委員会 1982 『牛込A・B遺跡』（柱穴様遺構）
 「九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 II」

長崎県教育委員会 1986 『鷹野遺跡』
 （A地点，不明土壙6号・7号/B地点，不明土壙2号・3号）
 「諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 III」

② 遺 物

石 器 表土および表面採集資料として縄文時代の遺物が10数点あった。土器 (Fig. 27—28) は風化した小片が3点ほどで、時代や文様の判別できるものはなかった。石器は、小形の剥片や碎片、黒曜石片がそのほとんどを占めるが、石鏃5点、石斧2点、礫器1点、敲石1点、剥片1点、計10点の石器を図化記載した。

石 鏃 1は黒曜石B製、基部に抉りはなく側縁は若干外湾したカーブを持つ。平面形はおよそ正三角形になる。

2は黒曜石A製、1とほぼ似通った平面形を持つが基部は微妙に内湾する。片面のみ部分的に磨製が施こされた、局部磨製石鏃である。

3は唯一安山岩製の石鏃で全体にパティナが著しい。完形ではあるが脚部などアンバランスで、粗雑な二次加工と言えよう。

4は黒曜石B製、片脚と先端の一部を欠損する。基部は多少内湾する。

5は黒曜石A製、片脚と先端の一部を欠損する細身の石鏃で基部の抉りはかなり奥まで入る。側縁は細やかな鋸歯状をなし脚部末端で丸く納まる。全体的に丁寧な二次加工である。

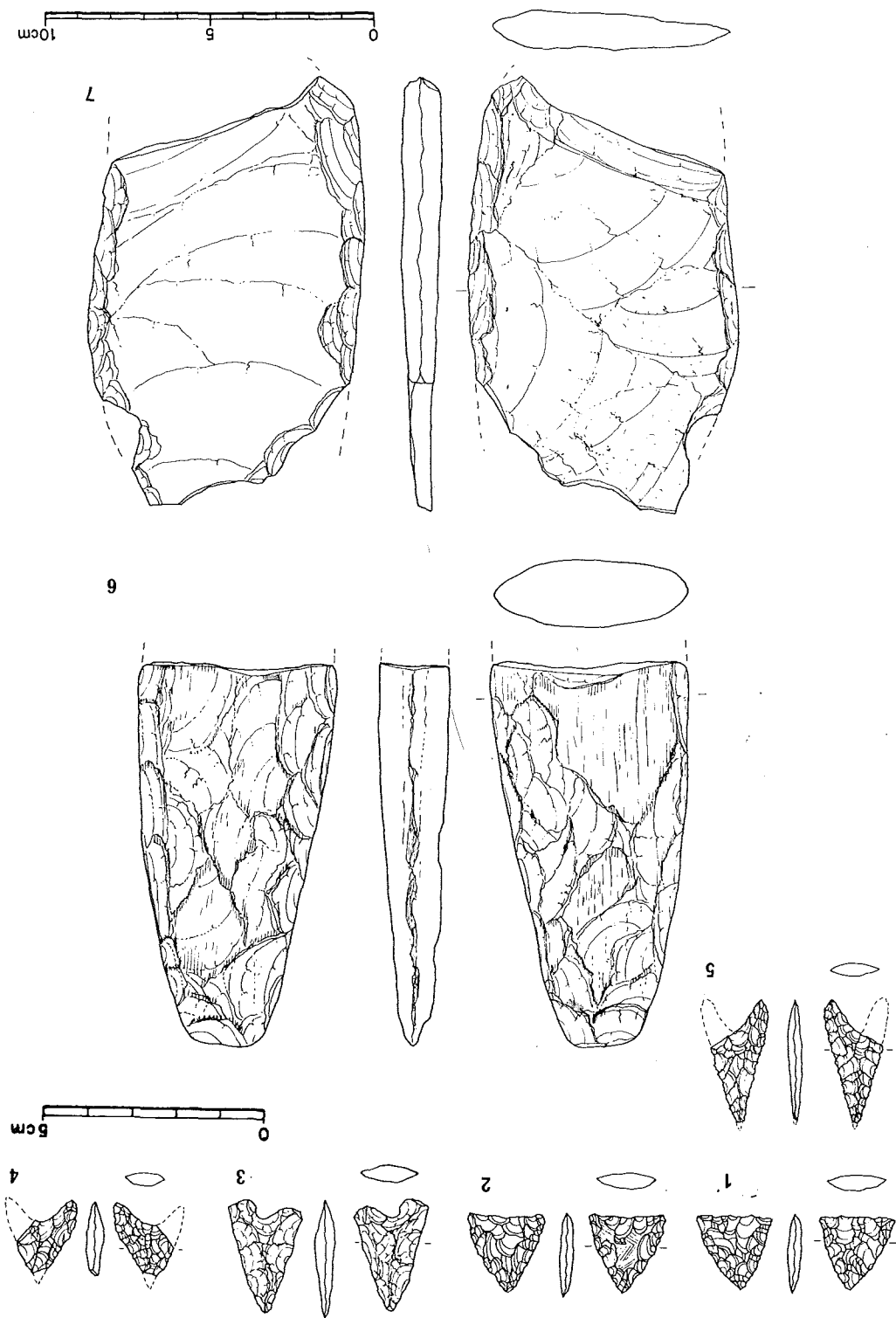
Tab. 5 石鏃計測表 (破損品は推定値を含む)

番号	石 材	破 損 部 位	重 さ (g)	大 き さ (cm)			抉 り (cm)		先 端 角 度
				長	幅	厚	深 さ	幅	
1	黒曜石B	完 形	0.8	1.7	1.7	0.3	—	—	80°
2	黒曜石A	完 形	0.8	1.8	1.8	0.3	0.1	1.5	80°
3	安 山 岩	完 形	1.3	2.6	1.7	0.5	0.4	1.0	55°
4	黒曜石B	脚 先	(0.4)	(2.0)	(1.7)	0.4	0.5	(1.5)	(60°)
5	黒曜石A	脚 先	(0.5)	(3.0)	(1.5)	0.3	0.8	(1.2)	(40°)

石 斧 6は蛇紋岩製の磨製石斧である。先端部分を欠損するがおおよそ15cm前後の長さが考えられる。本来は全面に研磨が施されていたと考えられるが、風化が著しく、また石材の質も悪く、多くの剥落が認められる(原寸値、長さ11.5cm・幅6.0cm・厚さ2.3cm・重さ260g)。

7は板状に剝離した安山岩製の扁平打製石斧である。6と同様に先端部分を大きく欠損するが、かなり大形のものが考えられる。石材の性質を活かし、側縁に多少二次加工を施した程度である。部分的にパティナが著しい(原寸値、長さ13.0cm・幅8.0cm・厚さ1.3cm・重さ180g)。

Fig. 27 縄文時代の石器① (1~5は2/3・6・7は1/2)



礫器 8は7と同様に板状に剝離した安山岩を利用したもので礫器として扱った。一側縁に簡単な二次加工を施した程度のもので、その部分を利用して、叩く・切る・掘るなどの機能が考えられよう。全体にパティナが著しい(原寸値, 長さ10.5cm・幅14.0cm・厚さ1.3cm・重さ242g)。

敲石 9は結晶片岩製の敲打器と考えられる石器である。ほぼ円形状を呈しており、その周縁に使用痕が認められる。多少風化が進み若干剝落が見られる(原寸値, 直径7.0~7.5cm・厚さ1.7cm・重さ142g)。

剥片 10は上部の平坦な打面より剝離された安山岩製の大形の剥片である(原寸値, 長さ7.6cm・幅6.5cm・厚さ1.9cm・重さ85g)。

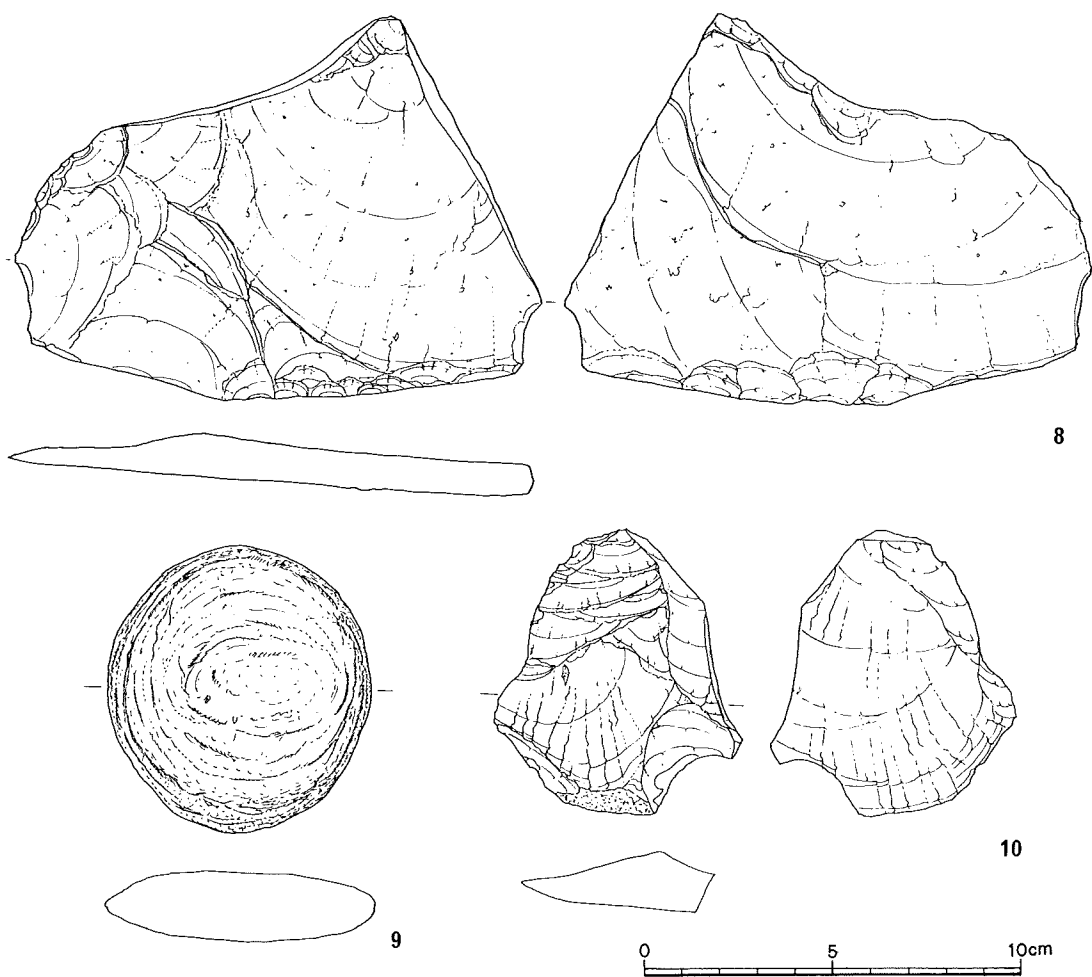


Fig. 28 縄文時代の石器② (1/2)

V. 小 結

出土遺物 遺物は第Ⅵ層～第Ⅳ層まで、ナイフ形石器を主とする石器群が出土し、ナイフ形石器16点、台形様石器2点、削器2点、加工痕ある石器3点、使用痕ある剝片1点、三稜尖頭器1点、石核10点、剝片69点、碎片467点、原石4点の総数575点を数える。

層位的な遺物の出土数は第Ⅷ層3点、第Ⅵ層85点、第Ⅴ層169点、第Ⅳ層318点が出土する。

主要器種の形態的特徴 ナイフ形石器は第Ⅵ層7点、第Ⅴ層1点、第Ⅳ層8点の計16点を数える。ナイフ形石器の製作技術、刃部形態によって、二側縁加工はⅠ～Ⅲ類、一側縁加工はⅣ類、剝片の一端に折断加工を施すものをⅤ類と分類し、更に細分を行った（百花台D遺跡^{註1}の形態分類^{註2}に従った）。

Ⅰ類 縦長剝片を素材に利用し、斜行する刃部を残し、他は刃潰し加工を施したものが7点出土した。

Ⅰ-2類 剝片を折断し、長くて斜行する刃部を残して刃潰し加工を施したものの3点（1, 2, 4）がある。

Ⅰ-3類 直線的な斜行する刃部をもち、器長と刃部長の長さの割合がほぼ半々で、細身の三角形状を呈すもの4点（28, 30, 31, 32）がある。

Ⅱ類 切出形状を呈すもので、斜行する刃部をもつもの。

Ⅱ-2類 刃部長が器長に比べて短いもので、切出形状を呈すもの5点（13, 27, 29, 33, 34）がある。

Ⅲ-3類 刃部長が器長に比べて長く、切出形状を呈し、平坦な基部を作り出すもの2点（3, 6）がある。

Ⅳ類 剝片の一側縁部に刃潰し加工を施し、他方を刃部に利用したもの。

Tab. 6 ナイフ形石器地区別・層位別・形態別分類表

地区		分類		Ⅰ類			Ⅱ類			Ⅳ類		計
		1	2	3	1	2	3	1	2			
B地点	第Ⅵ層		2	(3)				2		2	6 (3)	
	第Ⅴ層					1					1	
	第Ⅳ層				4		4				8	
C地点	第Ⅳ層				1		1				2	
表土・表採			3				2				5	
合計			3	2	(3)	5		8	2		2	22 (3)
			10 (3)			10			2			

Ⅳ－２類 縦長剝片を素材として利用したもの２点（５，７）がある。

出土したナイフ形石器はⅠ－２，３類とⅡ－２，３類，Ⅳ類と形態的には画一的な傾向を示している。

層位的には，Ⅰ－３類の４点，Ⅱ－２類の４点が第Ⅳ層に，Ⅱ－２類の１点が第Ⅴ層，Ⅰ－２類，Ⅱ－３類，Ⅳ類が第Ⅵ層に出土する。

利用石材はⅠ－２類が黒曜石Ａ，Ｃ製でⅠ－３類は黒曜石Ａ製を利用している。Ⅱ－２類は黒曜石Ａ，Ｃ類，Ⅱ－３類は黒曜石Ｂ製を利用し，Ⅳ－２類は黒曜石Ｂ，安山岩製である。

註１ 長崎県教育委員会 「百花台広域公園建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書」 長崎県文化財調査報告書 第92集 1988

註２ ナイフ形石器の形態分類で，魚洗川Ｂ遺跡の出土遺物が該当しなかったので省いた他の分類について記載する。

Ⅲ類は素材剝片の打面部をそのまま石器の基部に利用した幅広のもの。Ⅴ類は剝片の一端を折断し，折断面に刃潰し加工を施したものの。Ⅰ－１類は柳葉形状を呈し，剝片に刃潰し加工を施したものの。Ⅱ－１類は刃部長と器長の長さの割合がほぼ同じで，三角形を呈すもの。

出土石器について ナイフ形石器は総数22点出土（接合資料を１例含め）する。

形態的にはⅠ類，Ⅱ類，Ⅳ類に分れ，Ⅲ類とⅤ類は出土していない。

層位的には第Ⅵ層にⅠ－２類，Ⅱ－３類，Ⅳ－２類があり，第Ⅴ層はⅡ－２類で，第Ⅳ層になるとⅠ－３類とⅡ－２類が顕著である。

Ｂ地点では二側縁加工と一側縁加工のナイフ形石器がみられ，第Ⅵ層では一側縁加工と縦長剝片を折断し，長くて斜行する刃部をもつものと一側縁加工のものが特徴で第Ⅴ層～第Ⅳ層では小形で三角形と切出形状をもつものが特徴と考えられる。

台形石器は２点出土した。第Ⅴ層に側縁部の二次加工が主要剝離面側より鈍角に施されるものと第Ⅳ層に素材剝片の打面部を一側縁部に利用し，器表面に平坦剝離を施すもので，数量的にも少なく「百花台型」の台形石器の出土をみない。

三稜尖頭器は第Ⅳ層に１点出土した。

石核は，第Ⅵ層～第Ⅳ層に10点程出土した。特に第Ⅴ層～第Ⅳ層には上下両設打面，単設打面，断面が三角形を呈す石核が特徴である。

主要器種も数量的な出土量は少ないようだ。

利用石材 黒曜石は断口の色調、特徴によって三種類に分けられ、それに該当しないものを、その他の黒曜石とした。

黒曜石Aは漆黒色、黒色を呈し、ガラス光沢に富み、良質である。原産地は腰岳、大崎半島、針尾が該当する。

黒曜石Bは灰青色、灰緑色を呈し、パティナが顕著である。原産地は針尾、淀姫（東浜）が該当する。

黒曜石Cは灰白色、灰色を呈し、ガラス光沢に富む。原産地は針尾と産地不明なものも含まれる。

石材依存度 遺物の石材依存度は黒曜石98%、安山岩1.9%、その他0.1%で、黒曜石の依存度が非常に高い傾向を示している。黒曜石もA製59%、B製40%、C製0.8%、その他の黒曜石製0.2%の割合で、黒曜石A、B製の利用が高いようだ。

層位別依存度 層位別では第Ⅵ層は黒曜石94%、安山岩4%、その他2%で、黒曜石はA製29%、B製68%、C製、その他の黒曜石製が各1.5%である。

第Ⅴ層は黒曜石99%、安山岩1%で、黒曜石はA製27%、B製61%、C製7%、その他の黒曜石製5%である。

第Ⅳ層は黒曜石98%、安山岩2%で、黒曜石はA製85%、B製4%、C製10%、その他の黒曜石製1%である。

層位的な石材依存度は各層共に黒曜石の利用が高く、中でも第Ⅵ層～第Ⅴ層は黒曜石B製が多く、A製がその次に利用されている。また第Ⅳ層では、下層とは違って黒曜石A製が利用される傾向があるようだ。

遺存状況 遺物は調査区の西側に帯状に出土する（南北の両端はすでに削平されている）。

第Ⅶ層～第Ⅳ層まで、遺物総数は575点を数え、数量的には少ないが、遺存状況は層位を異にして重複する状況を示している。

遺物の出土数量は第Ⅵ層→第Ⅴ層→第Ⅳ層の順で多くなり、遺物の集中度も密になる状況を呈すようだ。

石器群は第Ⅵ層に1群、第Ⅵ層上部～第Ⅴ層下部に1群、第Ⅴ層上部～第Ⅳ層下部に4群の計6群が検出されている。

このような重層的な出土状況は、遺物の沈降現象面とも考えられなくもないが、むしろ自然的要因の中での互層にまたがった生活として、

捉えることが出来よう。(例えば、第Ⅵ層上部～第Ⅴ層下部に遺物の遺存状況が重なって分布する。このような状況は同一石器群として捉え、他の第Ⅵ層、第Ⅴ層検出の石器群とは時間的な差異として考えられる)。

石器群について 層位別の石器群は第Ⅵ層に2群、第Ⅴ層に5群、第Ⅳ層に4群の計11箇所を数えるが、遺物の遺存状況等により、重層的な分布範囲をもつもの11箇所を数える。

層位的な状況では、第Ⅵ層～第Ⅳ層にかけ重層的な分布範囲をもつが下層とは別々の石器群をもつもの(魚BⅥ-2群)第Ⅵ層～第Ⅴ層に重層的な分布範囲をもつもの(魚BⅥ-1群+魚BⅤ-1群)、第Ⅴ層～第Ⅳ層に重層的な分布範囲をもつもの(魚BⅤ-2群+魚BⅣ-2群、魚BⅤ-3群+魚BⅣ-3群、魚BⅤ-4群+魚BⅣ-4群、魚BⅤ-5群+魚BⅣ-1群)計6箇所の石器群と考えられる。

各石器群の組成 魚BⅥ-2群はナイフ形石器2点(Ⅰ-2類、Ⅳ-2類)、加工痕ある石器1点、石核1点、剥片を組成にもつ。石材は黒曜石A～C製、その他の黒曜石、安山岩を利用する。

魚BⅥ-1群+魚BⅤ-1群はナイフ形石器4点(Ⅱ-2類1点、Ⅱ-3類2点、Ⅳ-2類1点)、石核5点、剥片を組成にもつ。接合資料が魚BⅤ-1群で2例ある。石材は黒曜石A～C、その他の黒曜石を利用する。

魚BⅤ-2群+魚BⅣ-2群は剥片のみで、接合資料魚BⅣ-2群で1例ある。石材は黒曜石A、Bを利用する。

魚BⅤ-3群+魚BⅣ-3群は加工痕ある石器1点、剥片の組成をもつ。石材は黒曜石A～Cを利用する。

魚BⅤ-4群+魚BⅣ-4群は台形様石器1点、石核1点、剥片をもつ。接合資料が魚BⅤ-4群と魚BⅣ-4群で各1例ある。石材は黒曜石A～C、その他の黒曜石、安山岩を利用する。

魚BⅤ-5群+魚BⅣ-1群はナイフ形石器6点(Ⅰ-3類4点、Ⅱ-2類2点)、加工痕ある石器1点、三稜尖頭器1点、石核2点、剥片を組成にもつ。石材は黒曜石A、C、その他の黒曜石、安山岩を利用する。

以上の石器群は魚BⅥ-3群→魚BⅥ-1群+魚BⅤ-1群→魚BⅤ-2群+魚BⅣ-2群、魚BⅤ-3群+魚BⅣ-3群、魚BⅤ-4群+魚

BⅣ-4群, 魚BⅤ-5群+魚BⅣ-1群のように, 若干の時間的な差異のもとに変遷すると考えられる。

石器群の位置 遺跡での土層堆積状況は近接する百花台遺跡群と同様な状況下で, 遺物も第Ⅵ層~第Ⅴ層まで出土し, A T降灰後に位置付けられ, ナイフ形石器を主体とする石器群の所産と考えられる。

百花台遺跡での第Ⅵ層~第Ⅴ層のナイフ形石器を主体とする石器群と類似するものがあるが, 「百花台型」台形石器, 剝片尖頭器, 尖頭状石器等の出土を見ず, 若干様相を異にし, 時間的な差違が看取されるようだ。

当該遺跡の位置付けは, 次のとおりの編年的変遷を見るようだ。

百花台第Ⅶ層→百花台第Ⅵb層→百花台第Ⅵ層・日の岳Ⅲ・西輪久道下層→魚BⅥ-2群→百花台第Ⅵa層・魚BⅥ-1+魚BⅤ-1群→百花台第Ⅴ層→魚BⅤ-2群+魚BⅣ-2群・魚BⅤ-3群+魚BⅣ-3群・魚BⅤ-4群+魚BⅣ-4群・魚BⅤ-5群+魚BⅣ-1群・日の岳Ⅱ・西輪久道上層→百花台第Ⅳ層→百花台第Ⅲ層と考えられる。

以上のように, 百花台遺跡の第Ⅵ層~第Ⅳ層の間に位置付けられる。

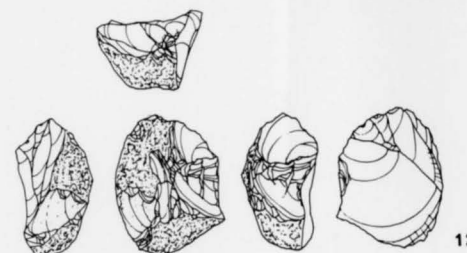
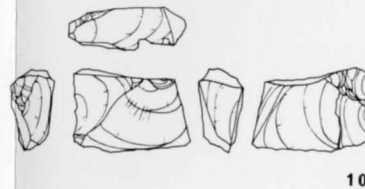
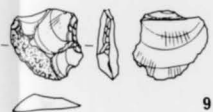
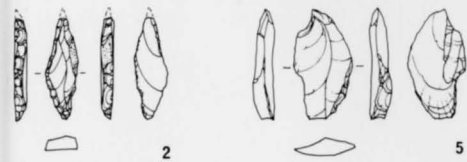
- 参考文献 註1 麻生優・白石浩之 1976 「百花台遺跡」 日本の旧石器文化—遺跡と遺物(下) 雄山閣
- 註2 長崎県教育委員会 1986「諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ」
- 註3 長崎県教育委員会 1985「諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅱ」
- 註4 長崎県教育委員会 1988 「百花台広域公園建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書」
長崎県文化財調査報告書 第92集
- 註5 長崎県教育委員会 1985 「百花台遺跡」
長崎県文化財調査報告書 第78集
- 註6 白石浩之 「西南日本におけるナイフ形石器終末期の予察」神奈川考古第3号
- 註7 萩原博文 「原の辻型台形石器について」 人間・遺跡・遺物—わが考古学論集1—麻生優編 文献出版
- 註8 長崎県教育委員会 電源開発株式会社 1982 「針尾人崎遺跡」
長崎県文化財調査報告書 第60集

ナイフ形石器

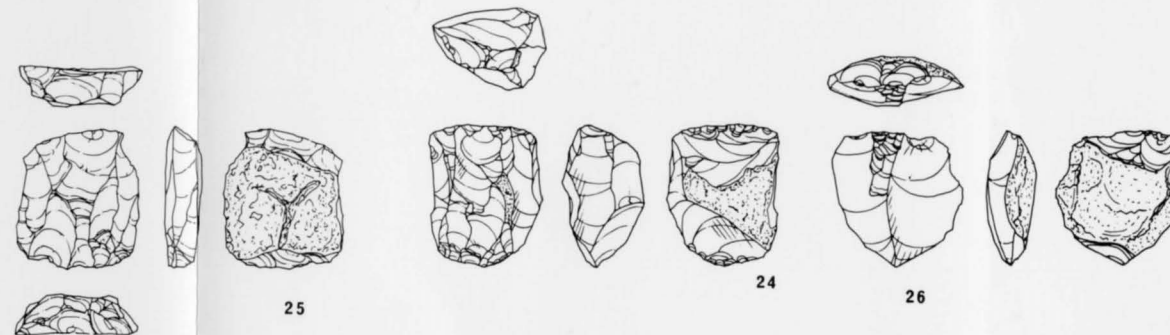
その他の器種

石核

魚B VI-2群

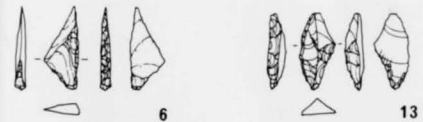


魚B VI-1群



+

魚B V-1群



魚B IV-3群

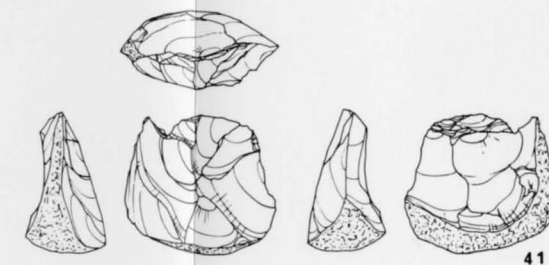
+

魚B IV-3群

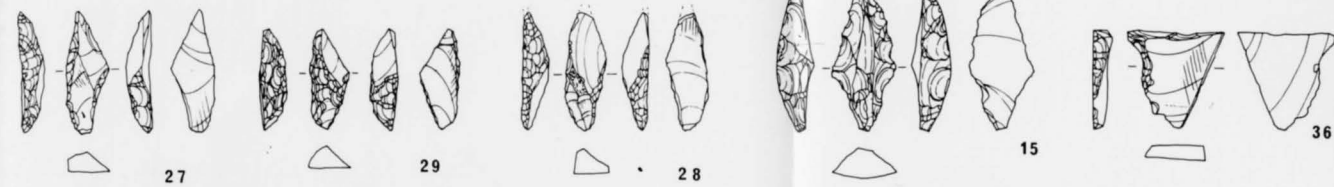
魚B V-4群

+

魚B IV-4群



魚B V-5群



+

魚B IV-1群

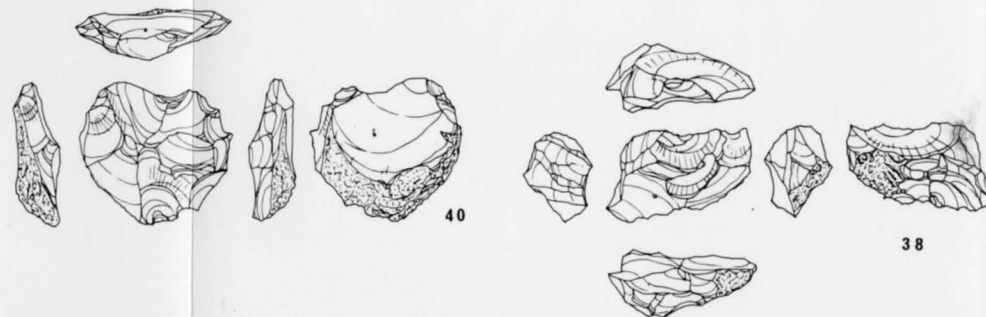


Fig. 29 魚洗川B遺跡B地点の石器群組成図

PLATES



魚洗川B遺跡遠景（北西より）



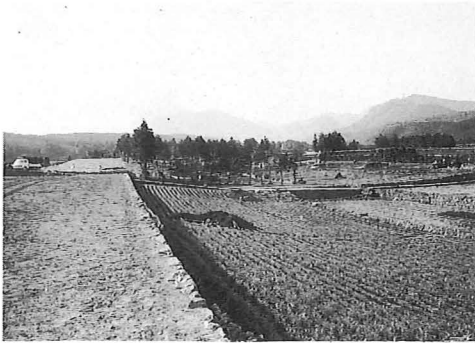
魚洗川B遺跡遠景（西より）



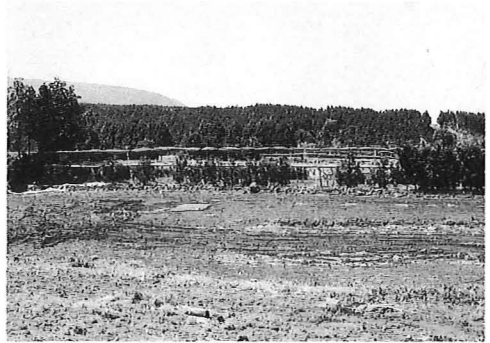
範囲確認調査 (A地点)



範囲確認調査 (C地点)



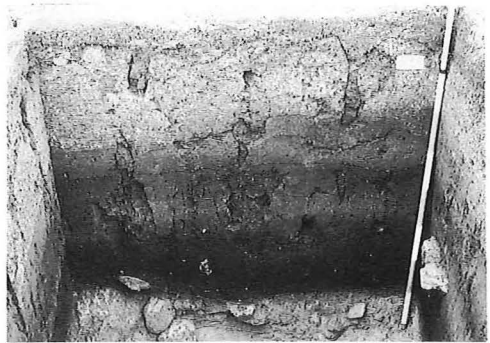
範囲確認調査風景 (A～C地点)



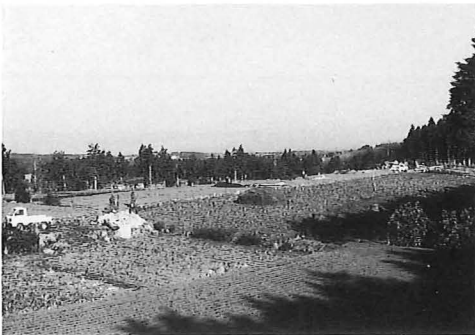
範囲確認調査 (C地点)



範囲確認調査風景 (B地点)



範囲確認調査205～6区 (北壁面)



範囲確認調査風景 (B地点)



調査風景

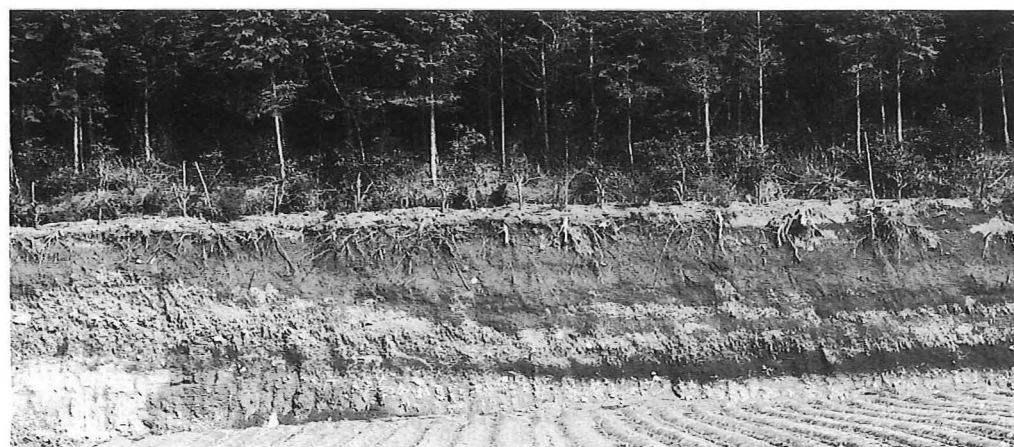
範囲確認調査 (A～C地点)・205～6区 (北壁面)・調査風景



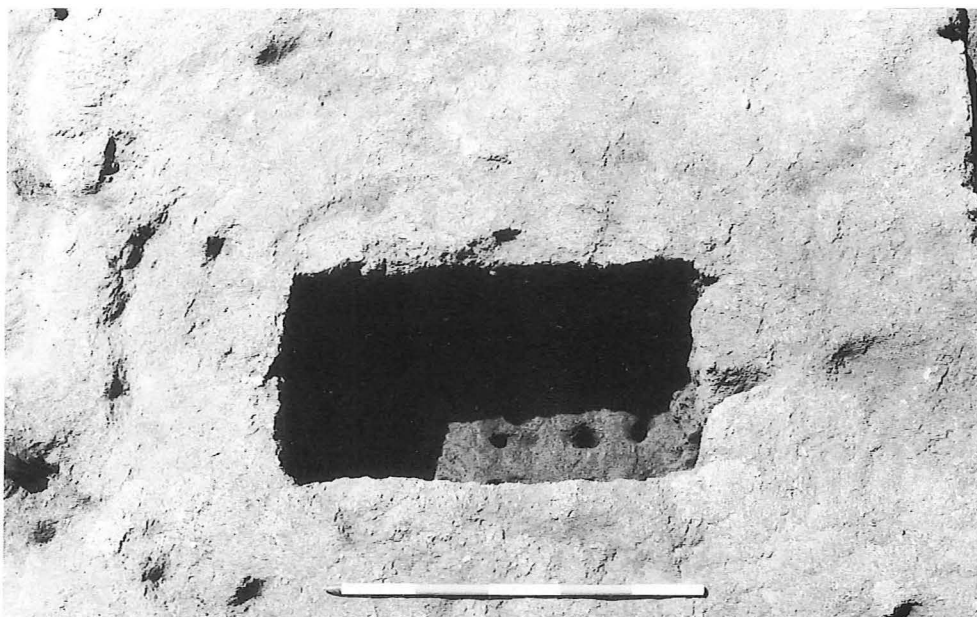
B地点208-39・40区, 209-31・32区南壁面



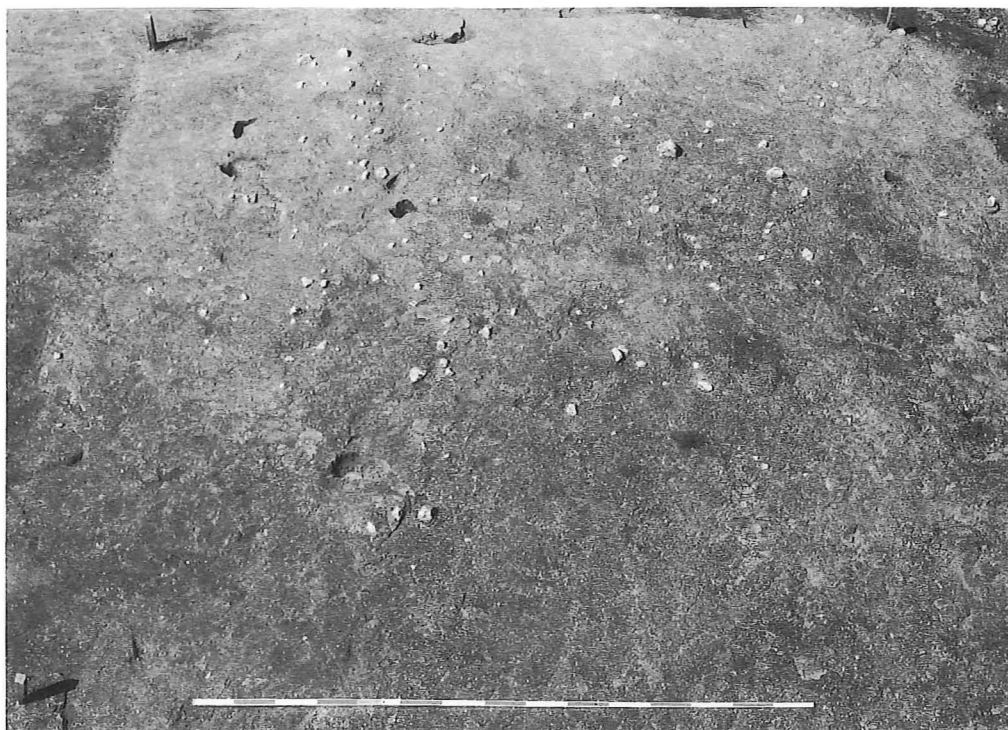
B地点208-49・50区南壁面



調査区周辺の土層堆積状況



B地点 縄文時代の遺構 (209-1, 11区)



B地点 先土器時代の第IV層検出遺構 (209-20・21区)



B地点 第Ⅵ層遺物出土状況（北より）



B地点 第Ⅵ層遺物出土状況（西より）



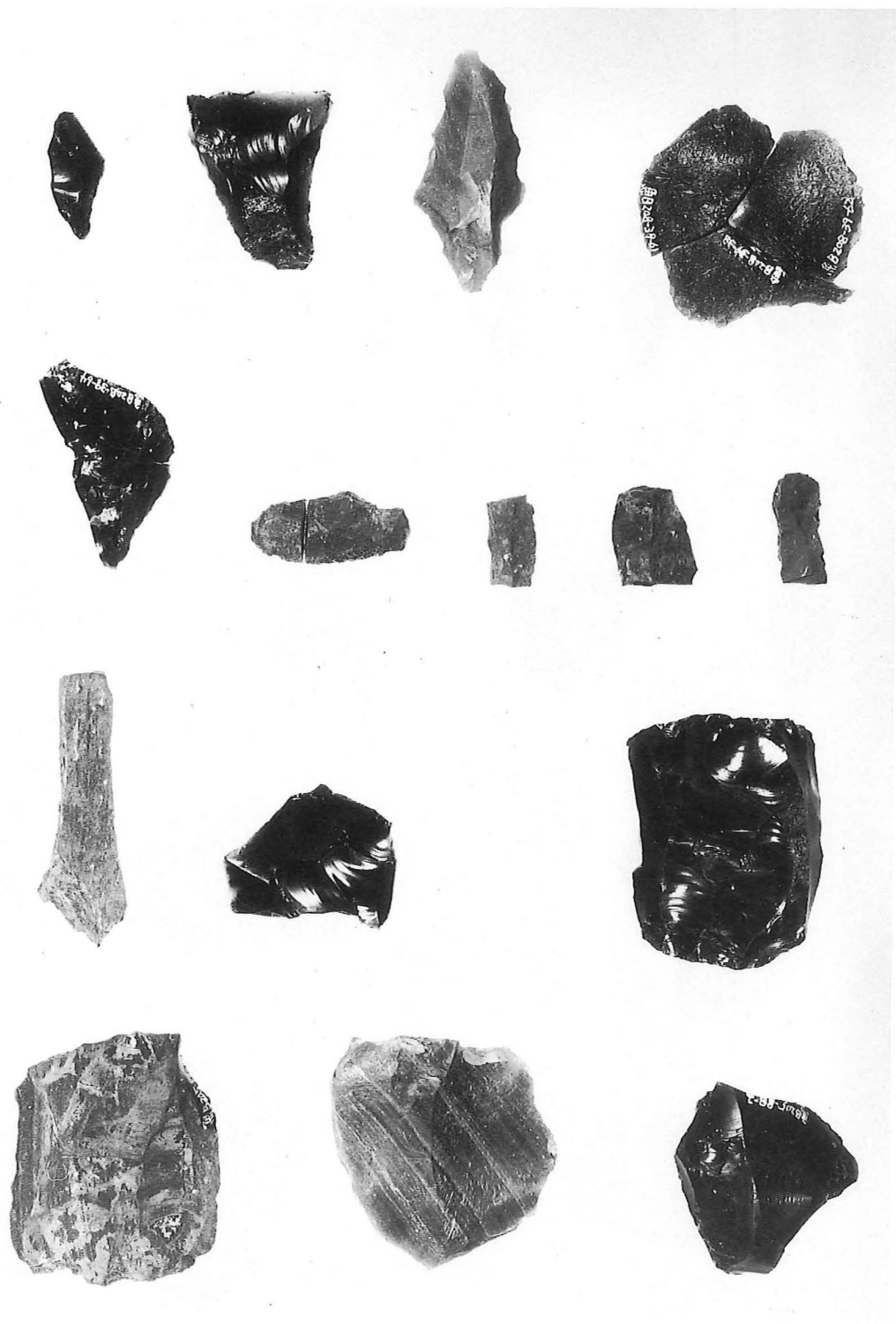
B地点 第Ⅳ層遺物出土状況（北より）



B地点 第Ⅴ層遺物出土状況（北より）



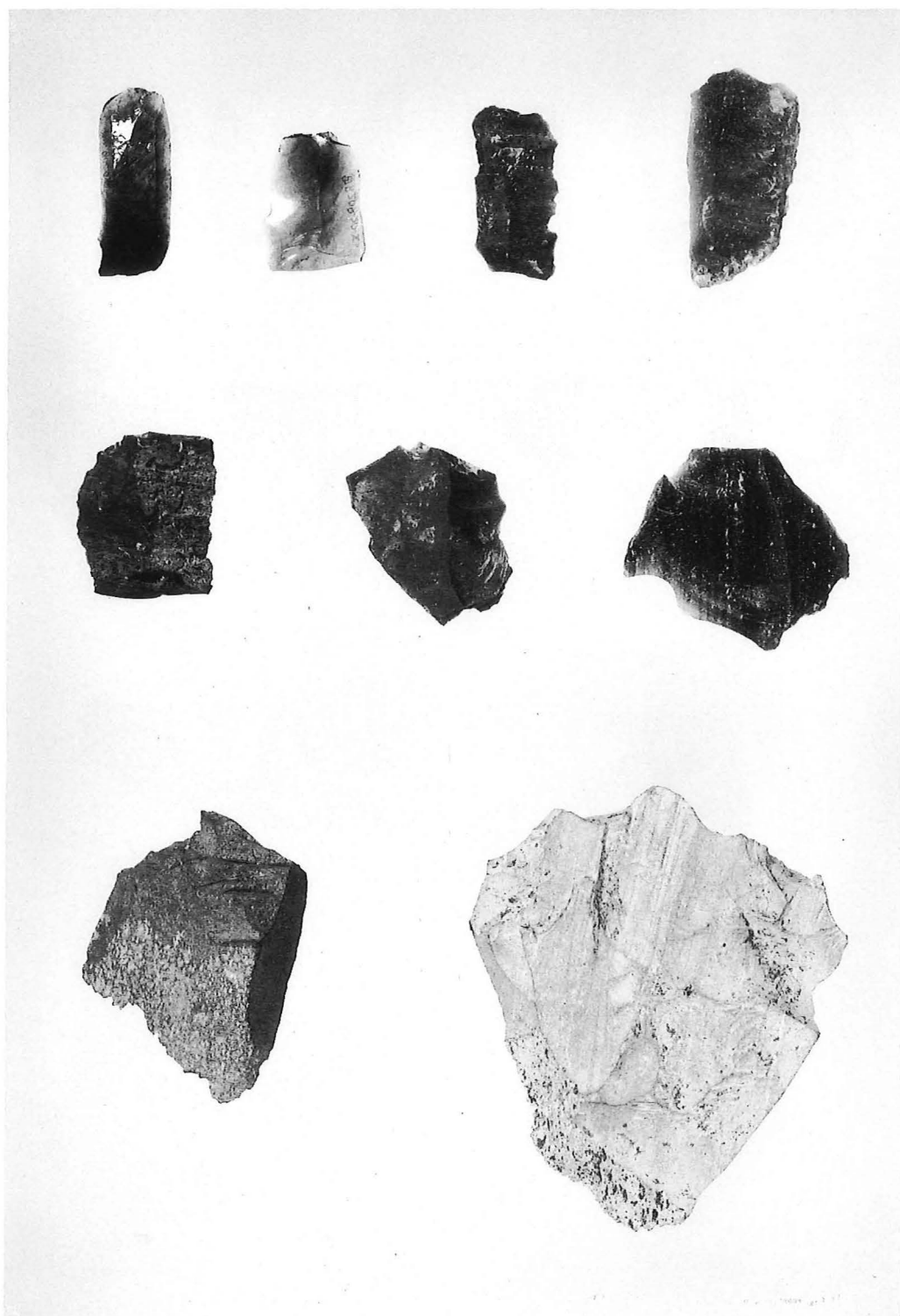
先土器時代の出土石器① (第Ⅵ層)



先土器時代の出土石器②（第V層）



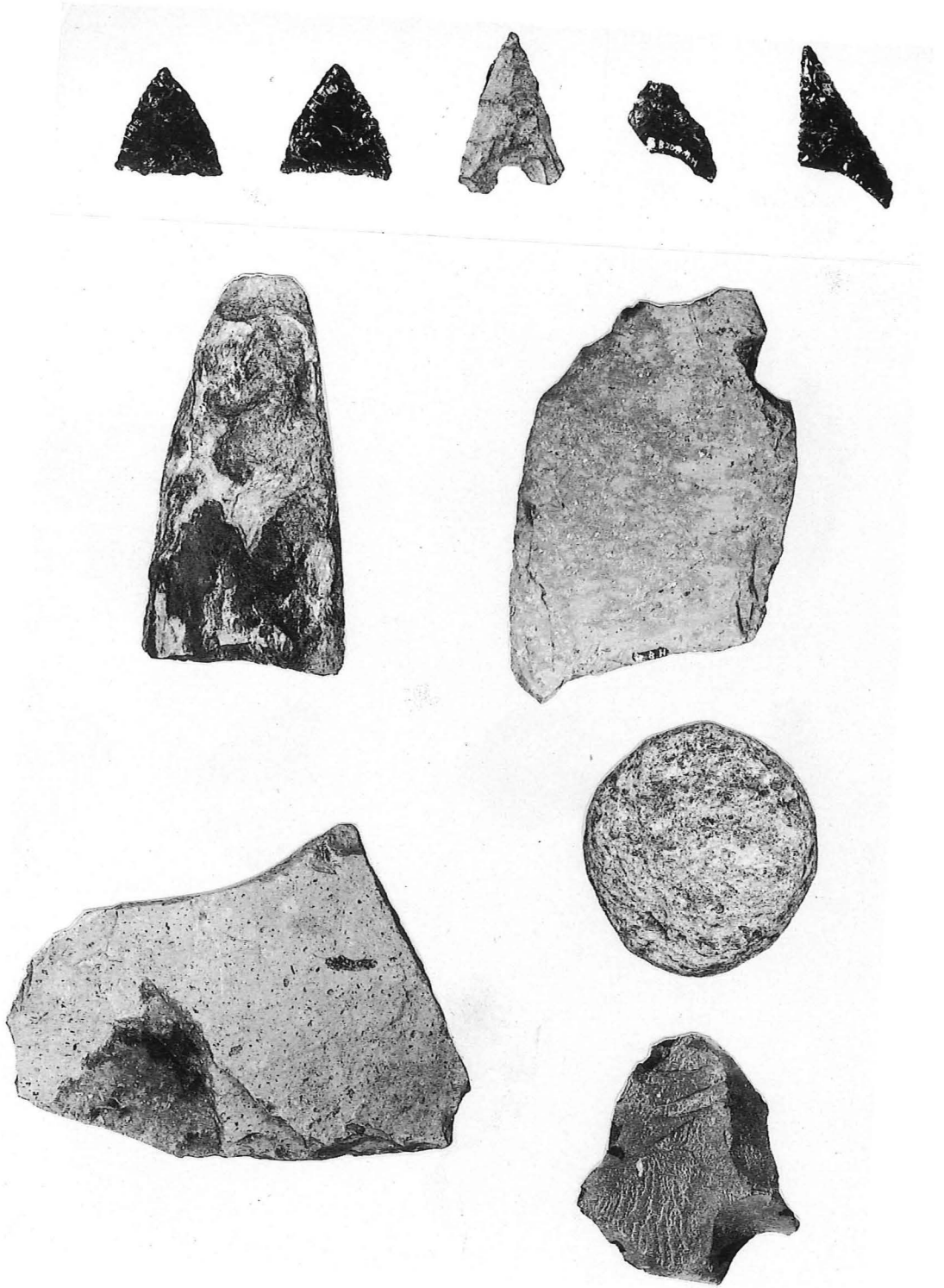
先土器時代の出土石器③ (第IV層)



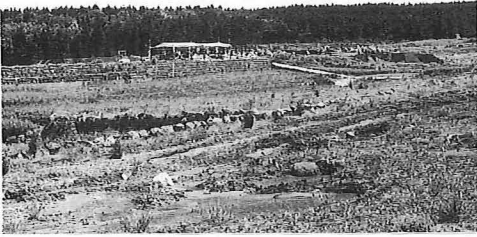
先土器時代の出土石器④（第Ⅳ層）



先土器時代の出土石器⑤ (第IV層)・表土・表採



縄文時代の石器



調査風景 (西より)



調査風景



調査風景 (南より)



調査風景



調査風景



調査風景

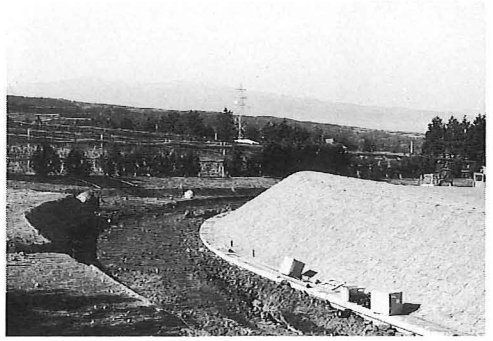


調査風景

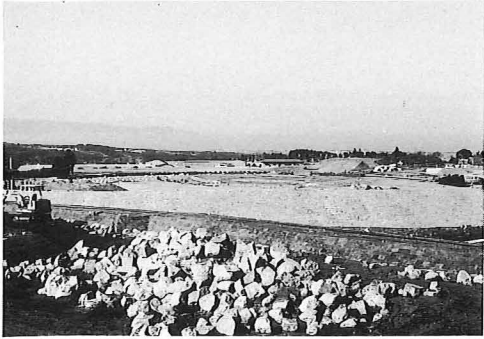
B地点調査風景



西より東を（全景）



東一西（C地点）



南東より一北面を望む



南東より北西



南より北を望む（中央は公園のシンボルの丘）



芝はりの状況



真北より南を望む

発掘調査後の遺跡

長崎県文化財調査報告書 第95集

魚洗川 B 遺跡

—全国植樹祭会場造成工事に伴う
埋蔵文化財緊急発掘調査報告書—

平成元年 3 月

発行 長崎県教育委員会
長崎市江戸町 2-13

印刷 S K 印刷
長崎市宝栄町 18-15